



令和5年度 東部地域グローバル 人材育成事業

事業実施 報告書

令和6年(2024年)3月
山口県教育委員会

目 次

1 事業概要.....	1
2 事業のめざすもの.....	2
3 今年度のプログラム.....	4
4 各プログラムの実施状況.....	7
5 修了レポート・修了証・表彰状.....	35
6 事業実施体制.....	36
7 参加者アンケート.....	38
8 事業による効果.....	58
9 事業の総括.....	63

1 事業概要

事業名称	東部地域グローバル人材育成事業
主催	山口県教育庁高校教育課
期間	令和5年（2023年）7月29日～令和6年（2024年）2月3日
事業内容	(1) 語学力育成プログラム (2) グローバル探究プログラム (3) 国際交流体験プログラム (4) ローカル探究プログラム (5) グローカル・ラボ
活動日数	約12日 （グローバル探究プログラム4泊6日、グローカル・ラボ3日、国際交流体験プログラム1～2日程度、ローカル探究プログラム1日） ※「語学コース」の参加者は別途、語学力育成プログラム（オンライン英会話 受講可能日92日）に参加
対象者	東部地域の県立学校8校（周防大島高等学校、岩国高等学校、岩国総合高等学校、高森高等学校、岩国商業高等学校、岩国工業高等学校、高森みどり中学校、岩国総合支援学校（中学部・高等部））の生徒のうち希望者
参加の規定	全プログラムへの参加 参加プログラムに関するアンケート調査への回答 全プログラム終了時の修了レポート提出
コース	①語学コース ・語学習得を起点にしてグローカル人材をめざすコース。 ・英語学習を集中的に行うため「語学力育成プログラム」としてオンライン英会話に参加する。国際交流体験プログラムへの参加は1回とする。 ②国際交流コース ・実践的な国際交流を起点にしてグローカル人材をめざすコース。 ・国際交流体験プログラムに2回以上参加する。「語学力育成プログラム」には参加しない。
参加者数	周防大島高等学校、岩国高等学校、岩国総合高等学校、高森高等学校、岩国商業高等学校、高森みどり中学校 計160名（語学コース42名 国際交流コース118名） ・上限160名とし、志望動機の作文等を踏まえて県教育庁に設置する選考委員会で選考 ・期間中に転校、体調不良、家庭の事情等により9名が途中辞退
費用	個人負担 約13万円（税込）

2 事業のめざすもの

(1)事業目的

本事業は、日常的に外国人と接することが多い山口県東部地域の地域特性を活かして、「地域に住む外国人や海外との交流を通じた地域活性化に関する教育活動」を実施することにより、地球規模・国際的（グローバル）な視点や経験を活かして、自分たちの地域（ローカル）社会に貢献する活動を行う人材を育成することを目的とする。

(2)達成目標:育てたい力

「グローバル人材」とは、「グローバル（global、世界）」と「ローカル（local、地域）」を掛け合わせた造語で、地球規模・国際的（グローバル）な視点や経験を活かして、地域（ローカル）社会に貢献する人材を指す。

Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できること）を実現するために、次のような能力の育成をめざしていく。

■育てたい力① → 語学力・コミュニケーション力

グローバル人材にまず必要なものは、グローバルに活躍するためのツール（道具）、具体的には語学力、会話スキル、コミュニケーション力などの習得が挙げられる。そのために、英語力の向上と、実際に外国人と会話するトレーニングを行っていく。

■育てたい力② → 多様性や多文化共生への理解

外国人との交流では、言葉のみならず相手の国の文化・礼儀作法の知識、異なる文化や価値観への理解、リスペクト及び柔軟な対応力が求められる。

こうした能力を自然に身に付けるためには、若いうちに多様な文化との接点を持ち、自分たちがこれまで過ごしてきたものとは異なる社会や文化があることを実感できる体験が重要である。そのため、外国人が身近な存在である東部地域の特性を活かし、こうした機会を設けていく。

■育てたい力③ → 自ら考え、物おじせず行動する力

異なる言語や文化を持つ外国人との交流では、相手が考えていることを理解する、あるいは想像するのも難しい局面のなかで自ら考え決断し行動していく能力も必要とされる。

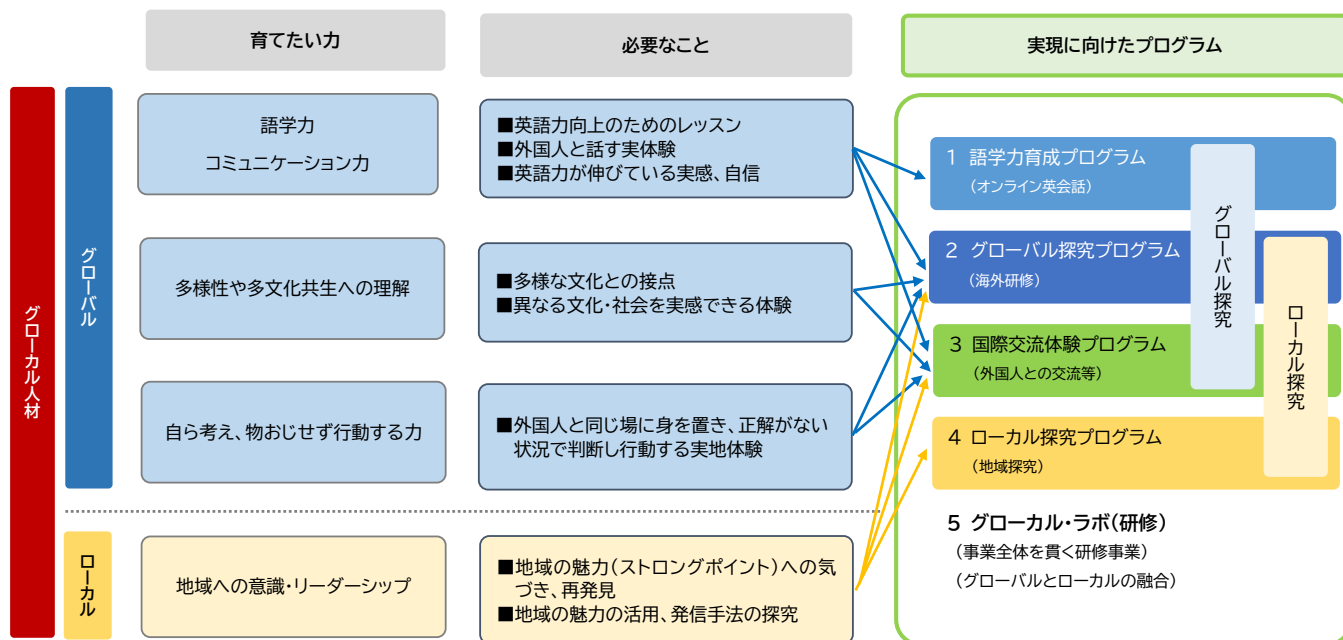
こうした能力を身に付けるために、実際に外国人と同じ場に身を置き、正解がない状況で判断し行動する実地体験を提供していく。

■育てたい力④ → 地域への意識・リーダーシップ

以上の3点は「グローバル人材育成」でも必要な能力であるが、「グローバル人材育成」においては更に、地域で活躍したいという意欲、地域社会に貢献して自らが地域を変えていくというリーダーシップが求められる。

自分の住む地域の魅力には気づきにくい面があるが、研修などを通じて地域課題やその解決方法の探究を行うことで、「自分たちが地域をけん引していく」という意欲を育てていく。

グローバル人材育成のイメージ



3 今年度のプログラム

(1) プログラム内容

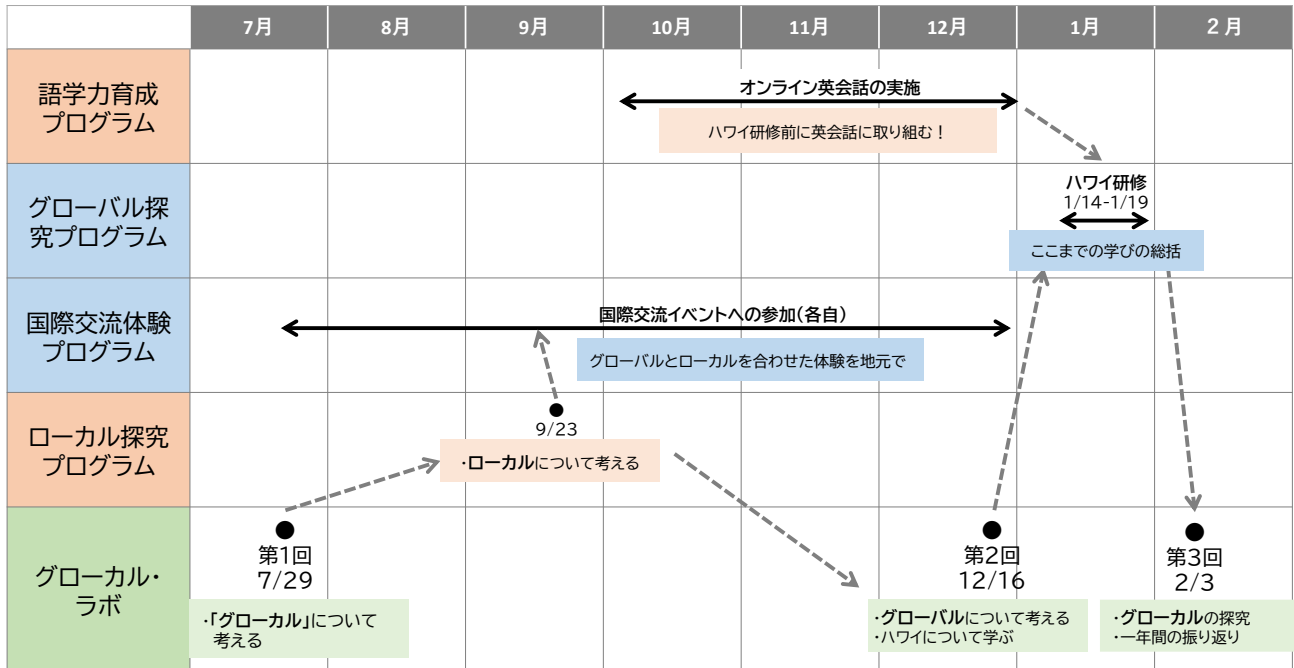
今年度は次の5プログラムを実施した。

令和5年度プログラムの具体的な内容	
語学力育成プログラム (オンライン英会話)	・外国人を講師とするオンライン英会話を受講。1回25分、毎日受講可能、3か月。 ・期間中、13回以上実施するものとする。 ＊「語学コース」希望者対象
グローバル探究プログラム (ハワイ研修)	・海外を訪問し、他の国の社会や文化等を体験。多様性への理解につなげる。 ・英語を使わざるを得ない環境に身を置き、英語で自分の考えを伝えられる自信をつけ、外国人と話すことへの抵抗感をなくす。 ・現地でのフィールドワークによって幅広い視野を持たせるとともに、将来的な山口県における自らの取組の参考とする。
国際交流体験プログラム (外国人との交流等)	・岩国市が実施している国際交流体験イベントや基地との交流事業等に参加し、外国人と接する機会が多い東部地域ならではの魅力を知る。
ローカル探究プログラム (地域探究)	・地域人材による講演や講師とのディスカッションを通して、地域の課題を発見し、その解決に向けて行動する意識を育む。 ・プログラムはグループワーク形式によるディスカッションを中心に、グループでの学び合いや、学びの深め合いを重視したものとする。
グローカル・ラボ (研修)	・上記を一貫する内容でワークショップや研修を実施。各体験を効果的なものとし、グローカル人材の総合的育成につなげる。 ・全3回実施。

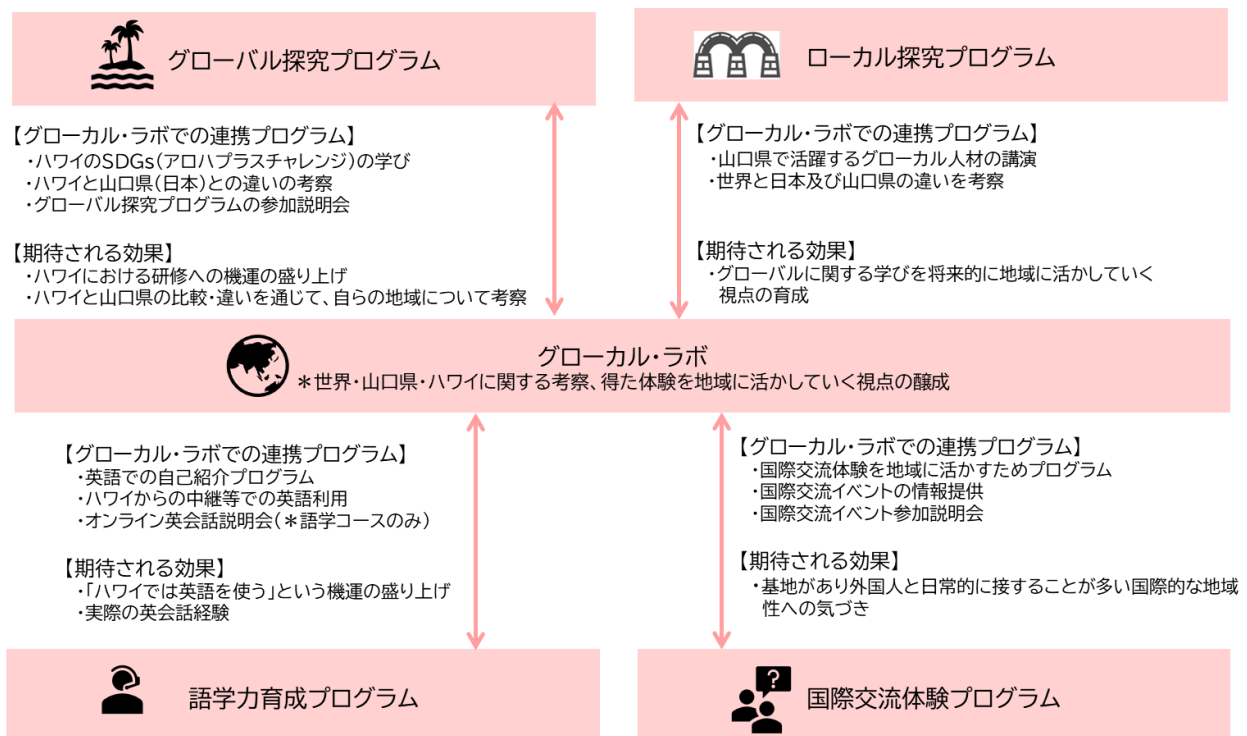
(2)各プログラムの連携

- 前ページの5つのプログラムについて、年間を通して相互に連携しながら進めていくことで、グローバル人材の総合的な育成に取り組んだ。

年間を通じた各プログラムの連携



各プログラムの関係性



(2)事業日程

令和5年（2023年）	4月19日（水） ～5月26日（金）	参加者募集
	6月2日（金）	選考委員会開催、参加者決定
	7月29日（土）	第1回グローバル・ラボ （岩国市役所 多目的ホール）
	7月後半 ～12月末	国際交流体験プログラム
	9月23日（土・祝）	ローカル探究プログラム （岩国市役所 多目的ホール）
	10月1日（日） ～12月31日（日）	語学力育成プログラム[*語学コース]
	12月16日（土）	第2回グローバル・ラボ （岩国市役所 多目的ホール）
令和6年（2024年）	1月14日（日）	グローバル探究プログラム出発式 （シンフォニア岩国 多目的ホール）
	1月14日（日） ～1月19日（金）	グローバル探究プログラム （アメリカ合衆国ハワイ州）
	1月19日（金） ～1月26日（金）	アンケート調査
	1月26日（金）	修了レポート提出
	2月3日（土）	第3回グローバル・ラボ 修了証授与 （シンフォニア岩国 多目的ホール）

4 各プログラムの実施状況

(1) 語学力育成プログラム

① 目的

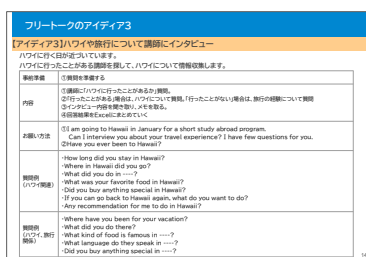
- 英語力を「グローバルに活躍できるためのツール（道具）」として捉え、語学力、会話スキル、コミュニケーション力の向上を図る。
- 自宅にいながら 24 時間いつでも外国人と英会話学習ができる環境を整備し、英語学習の障壁を取り払う。これにより英語を聞く機会・話す機会を増加させ、英語力の向上を図る。
- 様々な国の講師と接することで、異なる文化や社会、価値観を幅広く実感できるようにする。

② プログラム概要

期間	令和 5 年（2023 年）10 月 1 日（日）～令和 5 年（2023 年）12 月 31 日（日） 92 日間
参加人数	42 名（「語学コース」希望者）
実施体制	外国人を講師とするオンライン英会話を自宅等で受講 1 回 25 分、毎日受講可能
昨年度からの改善点	● 期間中 13 回以上の受講を語学コース選択の推奨条件とした。 ● 初期段階における躓きをなくすため、詳細な登録マニュアルを作成するとともに、ローカル探究プログラム（9 月 23 日）で説明会を実施し、希望者には登録サポートを行った。 ● 継続的な参加に向けて、テキストの活用方法、講師に投げかけやすい質問、とっさの一言など、レッスンを楽しむための資料を配布した。 ● レッスン開始から 1 カ月の時点で、実施にあたり困っている点を聞き、各生徒に細かいフィードバックを行った。



役立つテンプレートと一言		
How are you? の答え方	元気です。あなたは怎么样了？	I'm good, how about you?
How was your day? (今日はどうでしたか?) の答え方	今日は調子が良かったです。	It was good.
レッスンのとき	もう少しゆっくりお話しします。	Please wait for a moment.
	もう少しゆっくりお話しします。	Could you speak a bit slower?
	えっ？ (聞こえなかった時)	Pardon? / Sorry?
	もう一度言ってもらえますか？	Can you repeat that, please?
	なんて書くのかつづりが知りたいです。	I want to know the spelling.
	チャットボックスに入力してもらえますか？	Could you type in the chat please?
	少し考えたいですか？	Let me think for a while.
	"OOOO"ってなんですか？	What is "OOOO"?
あいづち	わかりました。	I see.
	大丈夫です。	It's okay.
お礼の挨拶	レッスン楽しかったです！	I really enjoy your lesson!
	ありがとうございました。	Thank you so much.
もっとたくさん取りたい！ → https://ekawa.dmm.com/guide/phrase/		



参加者配布用のマニュアル（一部）

(2) グローバル探究プログラム

① 目的

- 海外を訪問し、他の国の社会や文化等を体験して、多文化理解、多様性理解につなげる。
- 英語を使わざるを得ない環境に身を置き、英語によるコミュニケーション力を養う。英語で自分の考えを伝えられる自信をつけ、外国人と話すことへの抵抗感をなくしていく。
- 他の国・地域におけるグローバルな先進的取組を体験することにより、視野を広げるとともに、山口県における将来的な自らの取組の参考とする。

② プログラム概要

期間	令和6年（2024年）1月14日（日）～令和6年（2024年）1月19日（金） 4泊6日
プログラム実施場所	アメリカ合衆国ハワイ州
参加人数	151名
活動単位	● 基本的にグループ単位で活動。1グループ10名程度 ● 1日目～2日目のプログラムには各グループに現地大学生リーダー（以下「現地リーダー」という）1名が参加 ● 全日程について、一部のグループには山口県立大学生メンター（以下「県大生メンター」という）1名が参加 ● グループメンバー及び担当の県大生メンターは事業当初に決定し、グローバルラボ等も同一のメンバーで実施
プログラムの進め方	● グループメンバーと協力しながら主体的に考えて動く体験型プログラムとすることで、コミュニケーション力、物おじせず行動する力などの獲得をめざす。 ● 常に少人数のグループ単位で現地リーダーを中心に行動することで、英語能力の向上を図るとともに、外国人と話す経験を多く積む。 ● ハワイと日本との違いを常に意識させることで、山口県や自分の住む地域の良さや課題の気づきを促す。 ● プログラム全体のテーマを「Think Globally, Act Locally」に置き、帰国後に自らの決意を表明する。

昨年度からの改善点

- ハワイでのプログラムや生活を充実させるためには、グループメンバーの良好な人間関係構築が重要であることに鑑み、7月の事業開始時から折に触れてハワイではグループ行動であることを告知するとともに、グローバル・ラボでもチームビルディングを組み込むなどグループ内のコミュニケーション向上に取り組んだ。
 - 県大生メンターとの連携を深め、各グループのリーダー及びファシリテーターの役目を依頼した。
 - 1日目のフィールドワークBコースを、実物展示で分かりやすくハワイの歴史を学べる「ビショップ博物館」に変更した。
 - 参加者の英語の聞き取り能力に差異が大きいため、昨年度は英語だけで行っていた当日の活動説明や訪問先でのガイドなどに適宜日本語通訳を導入し、プログラムへの理解を深めるようにした。
-

③日程

日時	月日（曜）	現地時間	活動内容
1	1/14（日）	午前中	出発式（シンフォニア岩国）
		午後	岩国錦帯橋空港より羽田空港へ（空路） 羽田空港より成田空港へ（バス） 成田空港よりハワイ・ホノルルへ（空路） -----日付変更線通過-----
		午前	ハワイ・ホノルル着
		午後	フィールドワークプログラム<1> [A]パールハーバービジターセンター、戦艦ミズーリ記念館、太平洋航空博物館 [B]ビショップ博物館、オアフ島東部見学
		夕方	現地プログラムでの達成目標の確認
2	1/15（月）	終日	フィールドワークプログラム<2> ホロホロ・アドベンチャー
3	1/16（火）	終日	現地交流・体験プログラム [A]カウアイ島交流プログラム [B]カラニ高校交流プログラム [C]オアフ島体験プログラム
4	1/17（水）	終日	自由研修プログラム
5	1/18（木）	午前	ハワイ・ホノルルより成田空港へ（空路） -----日付変更線通過-----
6	1/19（金）	午後	成田空港より羽田空港へ（バス） 羽田空港より岩国錦帯橋空港へ（空路）

④実施状況

出発式

- シンフォニア岩国において、村岡嗣政山口県知事、柳居俊学山口県議会議員、繁吉健志山口県教育委員会教育長、原田英明山口県教育委員会理事及び全ての参加者の出席のもと、出発式が行われた。
- 出発式に先立ち、能登半島地震で亡くなられた方々に全出席者で黙とうを捧げた。
- 出発式では、まず本事業主催者として繁吉健志教育長から、無事に出発の日を迎えたことについての各方面への感謝とともに、参加者に向けて、本事業を通じて広い視野で物事を捉え一歩を踏み出す行動力を培い、将来、多様な人々と協働し課題を解決できる、真のグローバル人材に成長してくれることを願っているとの挨拶があった。
- 村岡嗣政山口県知事から参加者に向けて、殻を破ってチャレンジし自らを変化させていく「ノーチャレンジ・ノーチェンジ」の精神を大切に、異文化や異なる言語の中で萎縮して自分を「守る」のではなく「学ぶ」姿勢で、積極的にコミュニケーションをとって成長してきてほしいとの激励の言葉があった。
- 柳居俊学山口県議会議員から、山口県とハワイ州の間の多様な友好親善関係、周防大島とカウアイ島の姉妹提携 60 周年、ハワイ州への移民が 5 世 6 世となる中で絆をつないでいく重要性などを踏まえ、今回の研修で山口県とハワイ州との友好を更に深めるとともに、各人それぞれが成果をあげて将来の夢を実現してほしいとの激励があった。
- これらを受けて、参加者代表として東綾音さん（周防大島高等学校 2 年生）から、本日を迎えるにあたってお世話になった方々への感謝の気持ちとともに、本日まで培ってきた語学力、コミュニケーション力を十分に発揮し、ハワイ州に移民した先人たちについての学習も活かしながら、人生の糧となるような充実した研修としていきたいとの出発の言葉があった。



出発式の様子



参加者代表の挨拶



参加者全員での記念撮影

フィールドワークプログラム＜1＞ （1日目）

- ハワイ到着後、ハワイが現在の姿となるまでの歴史、文化などについて、2班に分かれてフィールドワークプログラムを実施した。

[A]パールハーバービジターセンター・戦艦ミズーリ記念館・太平洋航空博物館

パールハーバービジターセンター

- 真珠湾の名前で知られているパールハーバーは、今もアメリカの海軍の敷地となっている。参加者は最初にビジターセンターを訪れ、日本語で真珠湾攻撃についての説明音声聞いた後、資料館を見学した。



パールハーバービジターセンター

戦艦ミズーリ記念館

- アメリカの戦艦ミズーリ号がそのまま記念館となっており、内部を見学した。
- 記念館到着後、グループごとに現地リーダーと昼食を囲み、英語での会話を楽しんだ。
- 戦艦ミズーリ号は第二次世界大戦中、沖縄海域にて日本軍の特攻隊による攻撃を受け、その時の痕跡が現在もデッキ上に残る。艦内には関連資料が展示されている。
- 同艦は、1945年9月2日、東京湾にて第二次世界大戦終結の調印式が行われたことでも知られる。その後、朝鮮戦争、湾岸戦争に出動し、1991年まで現役であったことに参加者の多くは驚いていた。
- 参加者は、「日本側から見た第二次世界大戦」を学ぶ機会は多くあったが、ここでは「アメリカから見た第二次世界大戦」についてガイドから多くの説明を聞き、同じ物事でも見る視点によって全く異なることを実感する機会となった。



パールハーバービジターセンターの展示



戦艦ミズーリ記念館

太平洋航空博物館

- 第二次世界大戦時代の飛行機や航空の歴史が展示された博物館を見学した。
- 当時のアメリカの戦闘機等が展示されているほか、日本の零戦や魚雷なども展示されている。
- これらの展示物を見ながら、第二次世界大戦に対するアメリカ側の考え方、当時の日系人の苦勞、戦闘機の性能など、多方面にわたる話を聞いた。



太平洋航空博物館

オリエンテーション

- 博物館到着後、ビショップ博物館の沿革や歴史、見どころなどについて説明を受けた。
- ビショップ博物館は1889年に、カメハメハ王族の最後の子孫であるバニース・パウアヒ王女を記念し、夫であるチャールズ・リード・ビショップ氏によって設立された。世界最大のハワイ及び太平洋諸島の文化遺物と自然史標本のコレクションがあり、ハワイの歴史、文化、自然科学などを総合的に学ぶことができる。
- オリエンテーションの後、グループごとに、初めて会った現地リーダーと昼食を囲んだ。まだ多少の緊張はあったものの英語での会話を楽しんだ。



グループごとに現地メンターを交えてランチ

館内探検ツアー

- 博物館は、広い敷地に複数の館にわたりハワイの歴史、自然、文化などが展示されており、グループごとに、現地リーダーとともに興味があるジャンルを中心に館内を見学した。
- 各グループには、館内の移動に沿ってハワイの歴史・文化・自然などに関するクイズやミッションが示され、その解決を目指して現地リーダーやグループメンバーが協力しあって展示を見たり体験したりした。



展示を見て学びながらクイズやミッションに取り組む

オアフ島東部見学

- 博物館見学ののち、市街地を離れて、オアフ島東部の海岸線を見学した。ワイキキなどの街中からは想像もつかない雄大で美しいハワイの自然を味わった。



広い敷地内に点在する各館を巡る



オアフ島の雄大な自然

現地プログラムでの達成目標の確認 （1日目）

- 1日目・2日目の現地体験プログラムを担当するケビン・チン氏により、ハワイ現地でのプログラムにおける目標として、「Think Globally, Act Locally」が示された。
- 上記の考え方を踏まえて、日本での第2回グローバル・ラボでも挑戦したハワイに関するオンラインクイズに挑戦。グループごとに参加して正解を競った。ケビン氏が正解の提示の後解説を行うことで、ハワイに関する知識を身に付けた。
- これらのプログラムは全て英語で行われた。



会場の様子



グループごとにクイズに参加



プログラムの目標について



クイズの回答と解説

フィールドワークプログラム＜2＞ホロホロ・アドベンチャー （2日目）

- ハワイの多文化共生の現状、ハワイと日本との違いなどを体験するプログラムとして、ホノルルの特徴あるエリアを巡るフィールドワーク「ホロホロ・アドベンチャー」を実施した。
- グループ対抗ゲームで順番を決めてグループごとに出発。現地リーダーや県大生メンターのサポートを得ながらグループ内で話し合い、指示書にある謎を解き、ミッションを達成しながら次の訪問先を探し、公共バスに乗って移動した。
- 指示書はグループごとに異なるため、他のグループと合流することはほとんどなく、各グループとも4～5か所程度を訪問。最後はカピオラニ公園に集合し、グループごとに当日の活動の振り返りを行った。
- 現地リーダーの説明は全て英語で、また、謎解きのためには英語を話す、読む、書く、聞くの4技能を駆使する必要があり、一日を通して各参加者の英語学習にも効果をあげた。

<訪問先>

アロハタワー、ハワイパシフィック大学、ウォールアート、バイクシェアリングサービス、アラモアナ・ショッピングセンター、アラモアナ・ビーチ、ローソン Waikiki、イオラニ宮殿、デューク像、カメハメハ大王像、クヒオ像 ほか



ビーチでプラスチックごみを拾う SDGs 体験



初めての公共バスでの移動に緊張



ウォールアートを見学



カピオラニ公園にて最後の謎解きと一日の振り返り

現地交流・体験プログラム （3日目）

- 3日目は3班に分かれ、それぞれ現地の学生や地域の方々と交流を行った。

[A]カウアイ島交流プログラム

- 周防大島高校の生徒は周防大島の姉妹島であるカウアイ島を訪問し、現地では更に3グループに分かれて、カウアイ山口県人会や現地の高校生と交流した。

カウアイ高校・カウアイ山口県人会・カパア高校・ワイメア高校との交流

- 第1グループはカウアイ高校を訪れ、カウアイ山口県人会を交えたウェルカムセレモニーにおいて相互に学校を紹介して交流し、授業見学などのキャンパスツアーを体験した。

カウアイ郡への表敬訪問

- 山口県教育委員会の関係者と周防大島高校の一部の生徒はカウアイ郡を表敬訪問し、生徒代表が英語で挨拶を行った。

カパア高校との交流

- 第2グループの生徒はカパア高校を訪問し、授業見学や学校紹介などの交流活動を行った。

ワイメア高校との交流

- 第3グループの生徒はワイメア高校を訪問し、キャンパスツアーやフィールドワークなどの体験的な交流活動を行った。

カウアイ島内の見学

- それぞれの学校間交流終了後は、カウアイ島内のワイルア・リバー州立公園やキロハナ大農園、ワイメア渓谷などを見学した。



カウアイ県人会の方との交流



ゲームですっかり打ち解ける



カウアイ高校にて



カパア高校にて



ウェルカムセレモニー会場にて記念撮影

[B]カラニ高校交流プログラム

- 岩国高校の生徒は姉妹校であるオアフ島のカラニ高校を訪問し、同校の生徒と交流した。
- 日本語を専攻するカラニ高校の生徒がグループリーダーとなり、グループごとにコンピュータサイエンス、セラミックス、アート、料理、その他様々なクラスを見学する校内ツアーを行い、その後、グループごとの自己紹介やクイズなどを楽しんだ。
- ランチの後はグループごとにカラニ高校の授業に参加し、放課後のスポーツ活動の様子などを見学した。
- 夜は、カラニ高校の教員・生徒（一部）と岩国高校の教員・生徒全員で夕食を共にして交流した。



様々な特徴ある授業をグループごとに体験



校内のウォールアート前にて



夕食会での交流



カラニ高校の授業に体験参加

元気玉プロジェクト

- アロハプラスチャレンジ（ハワイ版 SDGs）の一環である「元気玉プロジェクト」は、自然素材である土・ぬか・有用微生物群（EM）をボール状に固めたものを水中に投入することで、汚染されたヘドロを自然分解してアラワイ運河の水質改善をめざす活動である。2026 年までに人々が運河で泳げるようになることを目標とし、2019 年の活動開始以降、悪臭がひどかった運河に魚が戻るなど効果を挙げている。
- 参加者はグループに分かれて元気玉＝泥団子づくりを楽しみながら、各グループに 1 名ずつ入った現地ボランティアと、オアフ島でも水質汚染が進んでいること、市民がボランティアとして環境保護に取り組んでいることを学んだのち、元気玉をアラワイ運河に投入した。



元気玉プロジェクトの概要



泥団子づくり

ハワイ大学キャンパスツアー

- 参加者は 4 つのグループに分かれ、各グループにハワイ大学の学生メンターがついて、英語でキャンパスツアーを行った。
- 参加者は、大学の学食で昼食を楽しむなどハワイ大学の学生生活を体験した。

ハワイ日本文化センター

- ハワイ日本文化センターは、日系人の歴史と文化的遺産を残すことを目的とする展示施設。
- 参加者はまず、「おかげさまで」「I am what I am, because of you」を中心とする日系人が大切にしてきた価値観や文化、移民当初の過酷な生活、当時の日本及びハワイの背景などの説明を受けた。
- 次いで、ハワイでアメリカ人として生まれた 2 世 3 世が第二次世界大戦においてアメリカと日本の中で苦悩した歴史や、ハワイにもあった日本人収容所の状況、戦後に日本文化を大切にしながら多文化共生を果たしている現在の日系人の姿などを学んだ。



元気玉（泥団子）をアラワイ運河に投げ入れる



ハワイ大学

パンチボウル国立太平洋記念墓地

- アメリカ軍の軍人の墓地であるパンチボウル国立太平洋記念墓地を車窓から見学した。

ホールフーズ マーケット

- 自然派スーパー。地元農家の支援にも積極的に取り組んでいる。
- 参加者は保存料や添加物を含まない食品やシャンプー、量り売りの石鹸など、日常生活に溶け込んでいるアロハプラスチャレンジのあり方を見学した。



ハワイ日本文化センターにて

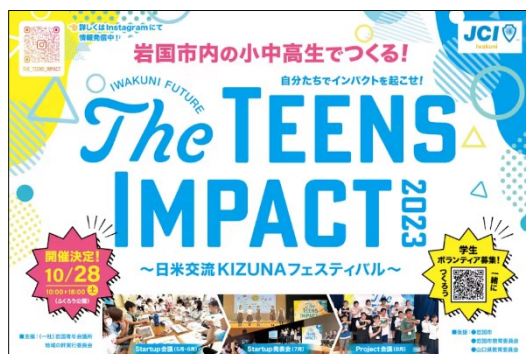
(3)国際交流体験プログラム

①目的

- 身近な地域で外国人とのコミュニケーションを実体験する。
- 外国人と対面で行う英会話の実績を積むことで、今の自分に必要なスキル、できなかったこと・分からなかったことを知り、語学力、コミュニケーション力の向上を図る。
- 国際交流の機会を通じて、外国人と接する機会が多い東部地域ならではの魅力や特性への気づきを促す。

②プログラム概要

期間	令和5年（2023年）7月～令和5年（2023年）12月
プログラム実施場所	岩国市を中心とする県内各所
プログラムの進め方	●岩国市、山口県等が主催する国際交流イベント等に参加し、外国人とともに活動する（ボランティア参加も含む）。参加生徒が自ら申し込み個別に参加する。 ●学校内のALTや留学生と、テーマを決めてディスカッションする。
昨年度からの改善点	●第1回グローバル・ラボで「国際交流体験プログラムの説明」の時間を設け、プログラムの目的や参加方法等について詳細に説明した。 ●第1回グローバル・ラボ、ローカル探究プログラム、第2回グローバル・ラボにおいて、自分の国際交流体験をグループ内で共有する機会をつくり、未参加者には各グループの県大生メンターからも参加を促した。 ●デジタルポートフォリオ内に国際交流体験プログラムの体験内容や感想を記入する欄を設け、参加体験を振り返るようにした。



The TEENS IMPACT 2023～日米交流 KIZUNA フェスティバル～
(The TEENS IMPACT 2023 Instagram より)



日米親善リレーマラソン 2023in 岩国
(日米親善リレーマラソン 2023in 岩国 Facebook より)

③参加した国際交流イベント等

以下のような国際交流イベント等への参加が見られた（参加した国際交流イベント等から一部を抜粋）。

イベント名	日付	開催場所	内容
One Day English Camp 2023 (@Kusei)	8月4日	岩国市周東勤労青少年ホーム	外国人講師と一緒に、アクティビティを通して英語で交流する。
プラっと Summer festival	8月19日	Plat ABC	夏祭り縁日の国際交流イベント。浴衣の着付け体験や風鈴作り体験など。
spooky story time	8月24日	Plat ABC	世界中にはどんな妖怪やお化けがいるのか、外国人の先生がそれぞれの国のお化けの話を英語で紹介して楽しむイベント。
Iwakuni Glocal Course	8月25日～26日	Plat ABC	外国人講師や基地ボランティアと交流しながら、岩国の魅力を考える2日間のプログラム。最後は、グループごとに英語でのプレゼン発表を行う。
Fall Earring Making Workshop	9月10日	Plat ABC	英語で説明を受けながら、オリジナルのイヤリングを製作。
蓮の花托ワークショップ	9月10日	Plat ABC	英語の説明を聞きながら蓮の花托（かたく）を使った岩国ならではの和布細工を製作。
Cultural Connections	10月5日	Plat ABC	バイリンガル講師による英会話レッスンと異文化交流。レッスン終了後は日頃の英語学習について個別コンサルティングを実施。
第61回 日本語・英語スピーチコンテスト	10月7日	シンフォニア岩国 多目的ホール	年齢や言語で8つの部門に分かれ、日本人は英語で、アメリカ人は日本語でスピーチを行う。
Halloween Afternoon Concert	10月22日	Plat ABC	演者も来場者もハロウィンコスチュームを着て楽しむ秋のコンサート。
ハロウィンカーニバル	10月22日	岩国文化会館 小ホールほか	仮装してアメリカのハロウィンを体験し、様々な国の人と交流する。
JAS（日米協会岩国）料理教室	10月26日 ほか	ロータスカルチャーセンター	外国人とともに、英語で料理を学ぶ。毎月1回開催。
The TEENS IMPACT 2023～日米交流 KIZUNA フェスティバル～	10月28日	愛宕山 ふくろう公園	学生による学生のための国際交流イベント。基地のある街として『日米交流』をテーマとしたイベントを実施。様々な国や年齢層の人が参加。
国際交流みかん狩り	11月4日	松田みかん農園	外国人とともにみかん狩りを楽しむ。

イベント名	日付	開催場所	内容
Christmas Wreaths to New Year's Decorations	11月12日	Plat ABC	英語で説明を受けながら、クリスマスにもお正月にも飾れるリースを製作。
Afternoon Concert ～フィドル・二胡の世界～	11月19日	Plat ABC	フィドル・二胡奏者とギタリストのデュオ。各地の古曲、民謡のカバーなど幅広い題材の世界の音楽を楽しむ。
Learn with Kate! ～容姿について英語で説明してみよう～	11月26日	Plat ABC	カナダ出身の英語の先生と、英語で”見た目”に関する表現方法について、アクティビティを通して学ぶ。
日米親善リレーマラソン 2023in 岩国	12月3日	55FIELD	家族や仲間を大切にする心を育み、日米両国が参加することで交流の場を創出し、お互いの絆を深める。
国際交流カフェ	12月9日	Plat ABC	基地ボランティアの方々とゲームやクイズをしながら英語で交流。
異文化体験 ～色んな国のクリスマス～	12月9日	Plat ABC	市内小中学校に勤務する ALT・国際交流支援員が様々な国のクリスマス文化を英語で紹介。
英語de ケイト先生と学ぼう！ Gift-giving	12月10日ほか	Plat ABC	カナダ出身の英語講師から、贈り物を贈ったり、受け取ったりする際に使える英語表現を、ロールプレイを通して学ぶ。
ALT、留学生等との交流活動	参加者による	各中学・高校	各人が好きなテーマで ALT や留学生と交流（海外に行った時の注意点、アメリカと日本との違い、ハロウィン、好きな K-POP アイドル、英語でアニメカルタ など）。



ハロウィンカーニバル(岩国市ホームページより)



English Cafe(PlatABC Facebook より)

(4)ローカル探究プログラム

①目的

- 地域のグローバル人材による講演や講師とのディスカッションをととして、地域の課題を発見し、その解決に向けて行動する意識を育む。

②プログラム概要

日程	令和5年(2023年)9月23日(土・祝)	10:00~16:00
プログラム実施場所	岩国市役所多目的ホール	
参加人数	81名 *周防大島高校2年生は別途「総合的な探究の時間」で実施	
活動単位	●基本的にグループ単位で活動。1グループ10名程度 ●各グループにそれぞれ山口県立大学生1名がメンターとして参加	
プログラムの進め方	●アクティブ・ラーニングの手法を用いて自調自考を促す。 ●座学以外にグループワーク、ワークショップ、ゲーム、発表など、グループメンバーと協力しながら主体的に考えて動く体験型プログラムを多く取り入れることで、コミュニケーション力、物おじせず行動する力などの獲得をめざす。 ●「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域社会で行動できる)」人材と身近に接することで、世界と日本のつながり、地域への貢献などを考える機会とする。	

③プログラムの内容

1 オリエンテーション (10:00~10:10)

講師：衛藤恵 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 本事業全体の目的と5つのプログラム、「グローバル」「ローカル」「グローカル」の振り返りを踏まえて、本日のプログラムの位置づけや目的の確認があった。

2 世界を知って地域で活躍 山口県のグローバル人材を知ろう (10:10~12:00)

(1)【講演】山口県でもできる多文化共生

講師：松浦和子氏（NPO法人ほうふグローバルネット）

- 中学生の頃に、海外で活躍する医療従事者のTV番組を見て憧れ、保健師として就職。JICA海外協力隊として2年間ヨルダンに派遣され、帰国後は地元の防府市で、本業の傍ら多文化共生を目的とするNPO法人で活動中。

- ヨルダンでの活動や現地の人々との交流、帰国後に防府市内で行っている外国人支援活動、防府市の外国人の現状、子どもへの日本語教育の課題などについてお話があった。
- 「誰かが橋渡し役になればつながりができ外国人住民の力が活かされる、小さな一歩も続けていくことで活動は広がり協力してくれる人が増えてくる、それが次へとつながっていく」とのメッセージがあった。



松浦和子 氏

(2) 【講演】「カナダ留学で学んだこと」～ローカル（地域）でグローバル（国際的）な経験を生かす

講師：村岡 誠氏（美祢市役所）

- 大学在学中の 2018 年 9 月から 8 か月間、カナダケベック州に留学。大学卒業後、美祢市役所に就職。
- 留学手続き、留学中の生活、現地大学生との交流、楽しい体験と失敗談、帰国後の就職活動での悩み、「何か」を通して人と人とを繋げる(幸せにする)架け橋となるようなことをしたい」ということで入庁をめざすまでの経緯などのお話があった。
- 「夢(やりたいこと)はどこでも実現できる時代だからこそ、ローカルというフィールドでグローバルな経験が生きてくる、国際経験は今後の多様な活躍を生み出す」とのメッセージがあった。



村岡誠 氏

(3) 【グループワーク】講師の先生方に質問

- 講演を聞いている間に感じた質問などを各自付箋に書き、グループ内で模造紙に張り出して共有。その後、各グループひとつずつの質問を選んで講師の先生方に質問した。
- 「海外で相手の言葉が分からないとき、どのような行動をとるべきか」、「市内に住む外国人の方と良い関係を築くには」、「カナダ留学に必要な費用」、「外国で友だちを作る方法は」などの質問が挙げられた。



質問に答えるお二人

3 【グループワーク】英語で自己紹介 (13:00~13:15)

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- 各自が準備してきた「英語での自己紹介」を、グループ内で相互に行った。



グループ内で英語で自己紹介

4 Differences between American and Japanese culture (13:15~14:30)

講演：スワンソン・マーク先生（山口県立大学）

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- 「アメリカの文化を「鏡」にして、自分の文化（日本文化や地域文化について考えよう!）」というテーマで、世界から見た日本や山口県の特徴、「ジョハリの窓」を使った分析、日本人の特徴などを考察。文化には「見える部分」と「見えない部分（文化的なルールやコミュニケーションスタイルなど）」があることを学んだ。
- その後、効果的な英語学習の方法について、シャドーイングなどを含めてアドバイスがあった。



スワンソン・マーク先生

5 国際交流体験プログラムの報告 (14:45~15:00)

講師：衛藤恵 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 国際交流体験プログラムについて、グループ内で成果を共有するとともに、未参加者には今後参加可能な国際交流イベントを示して参加を促した。
- 成果発表を行う参加者を募集した。



スワンソン・マーク先生のお話の様子

6 グローバル探究プログラム参加ガイド (15:10~15:50)

講師：白井悠太氏（株式会社 JTB）

- グローバル探究プログラムでのハワイ訪問について、趣旨と概要を説明した。
- パスポート取得等の事前準備とともに、初めて外国を訪れる参加者も多いため、現地で安全に過ごすための事前情報を提供した。

7 振り返り、事後課題説明 (15:50~16:00)

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- 本日の学びを振り返った。
- 課題と提出方法についての説明があった。



会場の風景

(5) グローカル・ラボ

① 目的

- 全ての研修内容をつなぎ、国際的な視野を地域に活かす視点を育む場とする。
- 各プログラムでの学びにより獲得した地球規模・国際的（グローバル）な視点を、地域社会の課題解決に向けてローカライズする能力を育成し、グローバル人材の総合的な育成を図る。

② プログラム概要

期間	第1回：令和5年（2023年）7月29日（土） 10：00～15：50 第2回：令和5年（2023年）12月16日（土） 10：00～16：00 第3回：令和6年（2024年）2月3日（土） 10：15～13：00
プログラム実施場所	第1回：岩国市役所 多目的ホール 第2回：岩国市役所 多目的ホール 第3回：シンフォニア岩国 多目的ホール
参加人数	第1回：94名 第2回：84名 第3回：81名 ＊周防大島高校2年生は別途「総合的な探究の時間」で実施
活動単位	●基本的にグループ単位で活動。1グループ10名程度 ●各グループにそれぞれ山口県立大学生1名がメンターとして参加 ●グループメンバー及び担当の県大生メンターは事業当初に決定し、グローバル探究プログラムも同一のメンバーで実施
プログラムの進め方	●アクティブ・ラーニングの手法を用いて自調自考を促す。 ●座学以外にグループワーク、ワークショップ、ゲーム、発表など、グループメンバーと協力しながら主体的に考えて動く体験型プログラムを多く取り入れることで、コミュニケーション力、物おじせず行動する力などの獲得をめざす。 ●プログラム全体のテーマを「Think Globally, Act Locally」に置き、最終回に自らの決意を表明する。

昨年度からの改善点

- 昨年度より一層、他の4プログラム（語学力育成プログラム、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラム、ローカル探究プログラム）との連携を深め、全プログラムを横断する学びの場とした。また、4プログラムの進め方指導や進捗状況管理などもこの場で行った。
 - グローバル探究プログラムを充実させるためには、グループメンバーの良好な人間関係構築が重要であることに鑑み、7月の第1回から折に触れてハワイではグループ行動であることを告知するとともに、各回でアイスブレイクを設けるなどグループ内のコミュニケーション向上に取り組んだ。
 - 県大生メンターとの連携を深め、各グループのリーダー及びファシリテーターの役目を依頼した。
 - 毎回、ネームカードを身につけて、学校や学年等が異なるグループメンバーにも相互に呼びかけやすいようにした。
 - 希望する参加者が全員の前で成果発表する場を新たに設けて、学びの体験を共有するとともに、参加者全員の励みとなるようにした。
-

③スケジュールと講義内容

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
テーマ	グローバル人材とは	ハワイを知ろう	地域で活かそう
10:00	開講式 オリエンテーション	開会、オリエンテーション ハワイについて調べたこと	開会・オリエンテーション
11:00	【講義・ワークショップ】 グローバル人材とは —世界を知って地域で活躍 (世界がもし 100 人の村だったら)	ハワイからの中継 ハワイの SDGs ハワイクイズ	一年間の振り返り ①講話 ②グループワーク ハワイ研修の振り返り
12:00	昼食	ハワイへの質問タイム 昼食	成果発表(2) 修了証・表彰状授与 一年間の総括 閉会行事
13:00	【チームビルディング】 ①自己紹介 ②アイスブレイク ③山ロクイズ	成果発表(1)	
14:00	休憩	ハワイ研修に向けて	
15:00	国際交流体験プログラム参加ガイド デジタルポートフォリオの使い方 事後課題の説明	休憩 修了レポートの書き方 国際交流体験プログラム成果共有 諸連絡	

⑤各回の報告

第1回グローバル・ラボ

日 時 : 令和5年(2023年)7月29日(土)

会 場 : 岩国市役所 多目的ホール

テーマ : グローカル人材とは

主な目的 : ①本事業全体の目的、内容、進め方を理解する

②「グローバル人材」について理解する

③グループメンバーや県大生メンターとのコミュニケーションを深める

1 開講式(10:00~10:10)

挨拶: 梅田憲和 課長(山口県教育庁高校教育課)

【挨拶の主旨】

◇本事業の目的は「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域社会で行動できる)」人材の育成にある。グローバル人材に必要な能力のひとつに「自ら考え、物おじせず行動する力」があるが、この事業に応募したことがすでにその「行動力」の現れである。いまこの場には、同じ行動力を持った人が集まっている。プログラム全体を通じて、相互に切磋琢磨して相乗効果をあげてほしい。

◇グローバル・ラボは本事業の5つのプログラムを貫くものとして位置づけられる大切なプログラム。難しいと感じる場面もあるかもしれないが、きちんと取り組んで今後に向けた良いスタートとしてほしい。

◇本事業を通して、自分の中にある可能性を十分に発揮して、物おじせず未来のグローバル人材へと歩んでいくことを期待する。

2 オリエンテーション(10:10~10:20)

(1) 事業に参加するにあたっての心構え

講師: 衛藤恵 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

●本事業への心構えとして「いろいろな壁が目の前に出てきても、それを打ち壊す勇気を持ってこの事業に臨んでほしい」とのお話があった。

●グローバル人材に求められる能力、その育成に向けての本事業全体のプログラム、年間を通じたスケジュールなどについての説明があった。

(2) 関係者紹介(10:20~10:25)

●本事業に関わる講師・スタッフからの自己紹介があった。

(3) グローバル・ラボについて(10:25~10:35)

講師: 岩野摩耶先生(山口大学)

- グローバル・ラボについて、『知ろう 世界のこと！ 考えよう 私たちの足元のこと！』をテーマに、①見えないものをみる ②自分の殻を破る ③いろいろな人と話す の3つに取り組んでほしい。また、世界に目を向けて、世界とのつながりを楽しんでほしい」とのお話があった。
- 各自、ネームカードを作成して身につけた。

3 【講演・ワークショップ】グローバル人材とは―世界を知って地域で活躍（10：35～12：15）

講演：ウィルソン・エイミー先生（山口県立大学）

講師：トレス・クリストファー先生（県立岩国高等学校）

ハガーマン・ハンター先生（県立高森高校）

①My Life Plan

- ワークシートを用いて短期、10年後、50年後、自分がどうなっていたいか、それに対して家族や学校等がどう反応しそうかを考え、グループ内で共有した。

②ワークショップ「もし世界が100人の村だったら」

- 世界の人口80億人がおかれている状況を100人の比率で示すことにより、環境問題や格差などを体感する。
- 各人に「架空のプロフィール」が書かれたカードが渡され、その人物になって動く。例えば、カードに「アジアの人」と書かれていたら、会場内で「アジア」と示されたスペースに行く。同じ大きさのスペースでもアジアは人数が多く、オセアニアは1人しかいないといったことから、世界の人口密度を体感する。少子高齢化、世界の識字率、富の偏在、フードロス、男女の人口差などを体感し、その後、その理由、関連データ、課題などが示された。
- 最後に、最初に行った「My Life Plan」と関連づけて、自分、家族、学校・職場、山口県や日本、世界、と視点を拡大していった自分の人生を考えた。

4 チームビルディング（13：05～14：50）

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

（1）自己紹介

- グループ内で、各自で自己紹介した。

（2）アイスブレイク

- 10名のグループを2つに分け、全20グループ対抗でゲームを行った。
- 優勝したチームには賞品が渡された。

（3）山口クイズ

- 県大生メンターにより、山口県のトリビアに関するクイズが英語で出題された。
- グループ対抗でクイズに答え、優勝したチームには賞品が渡された。

5 国際交流体験プログラム参加ガイド (15:00~15:05)

講師：高橋利枝氏（株式会社ぎょうせい）

- 国際交流体験プログラムの趣旨、対象となる国際交流イベント、申し込みや実施の方法、参加後のレポート提出の方法、参加後のグループ内での体験共有などについて説明があった。

6 デジタルポートフォリオの使い方 (15:05~15:40)

講師：根本育洋氏（株式会社ぎょうせい）

- 本事業で課題やレポートなどの提出、諸連絡、講義内容のアーカイブ等としてデジタルポートフォリオを活用することについて、その登録方法、使い方などを説明した。

7 振り返り、事後課題説明 (15:40~15:50)

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- 本日の学びを振り返った。
- 次回に向けての課題と提出方法についての説明があった。



開講挨拶（山口県教育庁高校教育課 梅田憲和課長）



世界がもし100人の村だったら（ウィルソン・エイミー先生）



会場風景



山口クイズ



グローバル・ラボについて（岩野摩耶先生）

第2回グローバル・ラボ

日 時 : 令和5年(2023年)12月16日(土)

会 場 : 岩国市役所 多目的ホール

テーマ : ハワイを知ろう

主な内容 : ①ハワイの概要を知る

②ハワイオリジナルのSDGsプログラムである「アロハプラスチャレンジ」の具体的な取組を学ぶ

1 オリエンテーション(10:00~10:10)

講師: 衛藤恵 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- 本日の活動についての内容説明、趣旨、目標などの説明があった。
- グローバル探究プログラムに同行する講師・スタッフについての紹介があった。



オリエンテーション(衛藤恵 指導主事)

2 【グループワーク】ハワイについて調べたこと(10:10~10:30)

講師: 岩野摩耶先生(山口大学)

- 各自が事前に調べてきた「ハワイ観光やハワイ研修に行った時に文化的な違いから注意すべき点」「ハワイの歴史、文化、自然」について、グループ内で共有した。



ハワイからの中継-フラダンス

3 ハワイからの中継、ハワイのSDGs(10:30~11:40)

講師: 丸王祐子氏(LbE ハワイ)

ケビン・チン氏(LbE ハワイ)

- ワイキキからの実況中継で、ハワイの風景や空気感を実感した。
- 現地からの中継映像を見ながら、現地の人とともにフラダンスを体験。1月のグローバル体験プログラムの日程や見どころの説明があった。
- ハワイのダイバーシティ(多様性)、ハワイ独自のSDGsプログラムである「アロハプラスチャレンジ」についての解説を聞き、ワイキキにおける実際の取組事例を映像で学んだ。
- ダイヤモンドヘッドを例に、ハワイのオーバーツーリズムの課題とその解決のための取組の説明を受けた。



ハワイのSDGs(丸王祐子氏)

4 【グループワーク】

ハワイクイズ(11:40~12:00)

講師: ケビン・チン氏(LbE ハワイ)

- グループ対抗でハワイに関するオンラインの英語クイズに挑戦。正解の提示後に詳細説明を聞くことで、ハワイに関する知識を身に付けた。



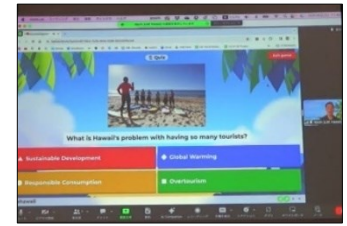
ハワイからの中継(ケビン・チン氏)

5 【グループワーク】ハワイへの質問タイム（12：00～12：30）

講師：丸王祐子氏（LbE ハワイ）

ケビン・チン氏（LbE ハワイ）

- グループごとに、ハワイからの中継映像を見ての疑問点やハワイに関する質問などを話し合った。
- 各グループから一問ずつ、ハワイについて質問した。ハワイのお勧めスポット、現地でのお金の使い方や物価、現地で気を付けるべきマナー、アロハスピリットなどについての質問があった。



ハワイクイズ

6 成果発表（13：30～13：40）

講師：衛藤恵 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- ここまでの学びの成果について、2名の参加者から英語での発表があった。



本事業の、そしてハワイでの目標

7 グローバル探究プログラムに向けて（13：40～15：05）

講師：白井悠太氏（株式会社 JTB）

- グローバル探究プログラムでのハワイ訪問について、行程や事前準備、体調管理などについて直前レクチャーを行った。



会場の風景

8 修了レポートの書き方（15：20～15：50）

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- ハワイからの帰国後、すぐに修了レポートを提出するため、事前に配付された修了レポートの様式を見ながら記入する内容を考えた。
- ここまでの学びの結果として、修了レポートに各自が書く「行動宣言」について考え、グループ内で話し合った。



グローバル探究プログラムの説明

9 振り返り、事後課題説明（15：50～16：00）

講師：岩野摩耶先生（山口大学）

- 本日の学びを振り返った。
- 次回に向けての課題と提出方法についての説明があった。
- 事後課題、修了レポート、アンケート調査の提出締切について確認した。

第3回グローバル・ラボ

日 時 : 令和6年(2024年)2月3日(土)

会 場 : シンフォニア岩国 多目的ホール

テーマ : 地域で活かそう

主な内容 : ①グローバル探究プログラムを振り返る

②この1年間の学びを振り返り、プログラムの修了とする

1 オリエンテーション(10:15~10:25)

講師: 衛藤恵 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- 本日の活動についての内容説明、趣旨、目標などの説明があった。
- ここまで行ってきたプログラムの振り返りとともに、「ローカルとグローバルは連環しており、それを踏まえて、ここをスタートラインとして真のグローバル人材をめざしてほしい」との話があった。

2 一年間の振り返り(10:25~11:15)

講師: 岩野摩耶先生(山口大学)

- 一年間の全てのプログラムの内容を振り返った。
- 県大生メンターからのメッセージ動画がサプライズで上映された。
- 岩野先生の講話の後、グループごとにこの一年間の活動と学びを振り返った。

3 ハワイ研修の振り返り(11:25~11:50)

講師: 佐貫誠 教育調整監(山口県教育庁高校教育課)

- 「グローバルとローカルの間にあるもの」として日本・日本人・日本文化を踏まえて全ての人にとって住みやすい国・県となっていく必要性、ハワイでの食事の経験から文化の違いと『自分で決める』重要性、「学びに向かう姿勢」としてメモを取る大切さなどについての話があった。

4 成果発表(11:50~12:05)

講師: 衛藤恵 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- ここまでの学びの成果について、3名の参加者から英語での発表があった。

5 修了証授与・表彰状授与(12:05~12:10)

- 半年間の学びの証として、代表者に修了証が授与された(他の参加者には別途手渡された)。
- 第2回グローバル・ラボ、第3回グローバル・ラボで成果発表を行った計5名が表彰され、代表者に表彰状が授与された。

6 一年間の総括（12：10～12：15）

挨拶：梅田憲和 課長（山口県教育庁高校教育課）

【挨拶の主旨】

◇修了レポートには、本事業に参加することで「いろいろな文化に触れることができた」、「語学力が向上した」、「多様性や他の人を尊重する大切さを実感した」など様々な学びが書かれており、この期間での成長が伺われた。ここから見る皆さんの表情も第1回グローバル・ラボの時より堂々としており、研修が充実していたものと思う。

◇本日がグローバル人材育成の終わりではなく、また次の一步、次の一步と踏み出し続けて、「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できる）」人材となっていくことを期待する。最後に、関係者に感謝するとともに、参加者の皆を称えたい。参加者の皆さんも、周りの人々を称えてほしい。

7 閉会行事（12：15～12：25）

●関係者全員が舞台上から参加者に挨拶して閉会した。



一年間の振り返り（岩野摩耶先生）



一年間の総括（山口県教育庁高校教育課 梅田憲和課長）



ハワイ研修の振り返り（佐貴誠 教育調整監）



成果発表の様子



修了証・表彰状授与



全員で記念撮影

5 修了レポート・修了証・表彰状

- 参加者は一年間の全プログラムの学びを振り返り、今後にどのように活かしていくのかをまとめた修了レポートを提出した（別冊参照）。
- 参加者全員に修了証が授与された。
- 成果発表者にはそれぞれ、表彰状が渡された。

[illegible]

東京国際プロから人材育成塾 終了レポート

■あなたの「英語の自己紹介」

My name is XXXXXXXXXX. I like playing the piano. I'm from Iwakuni city, Yamaguchi prefecture. My city has Kintai Bridge, which is famous, and many visitors come and enjoy it.

■国内でのプログラムで心に残ったこと・学び

七月の海外プログラムでは、殆どの人が協力して 自己紹介をしたりしたこと、殆どの人たちがいよいよニュージーランドを回ることででき、より仲が良かった。九月のオールカラム発表プログラムでは、先生方が実際に結婚された人々と懇話することで学んだことが多かった。オンライン・英語塾では、実際に日本を日常生で使っている学生とそこで、良いなりとより詳しく理解することができた。

■海外でのプログラムで心に残ったこと・学び

セントの使い方が分からず困っていたら、店員さんが優しく教えてくださりました。動画を撮っていたピーエスさんが多く知らない人が笑顔で聞いてくれたり、日本と違って17度では人がとても居心地よくて楽しかったです。フレンドリーで、マインが高い人が多くて、とてもいいお話を聞かすことも出来ました。日本語を伝える人多くて驚いた。英語を聞き取れなかったときにつくししゃべってくれたので、聞き取ることができうれしかったです。

■今後、この経験や学びをどのように活かしていきたいか

行動宣言「フレンドリーで親しみやすい人になる。」

ハワイの人みんなとてもフレンドリーで、バスの中やお店などでとても優しくかけてくれ、挨拶も通りやすくなり、気持ちよく通って挨拶するのではなく、笑顔でしかたなくしてとても、いいやさを感したので、これからは笑顔で自分から挨拶したい人になりかけたなしで親しみやすい人になれるよう頑張ろうと思った。自分は日本や外国のことを思ったより知らないことに気づいたので、もっと知りたいと思った。

— 思い出のトピック —

街中の壁にたくさんカラフルな絵が描いてあってとても賑やかだった。その絵もかわいくておもしろいものも多かった。

ハワイの果物がたくさんあってフルーツが揃ってて美味しかった。このフルーツはやっぱりモモの味がして最後まで味が楽しめた。

修了レポート（例）



修了証



表彰状

6 事業実施体制

(1)産官学連携による事業実施

- 本事業では、東部地域の県立高等学校・中学校、防衛省及び岩国基地等の協力と、山口県、岩国市、周防大島町、和木町、山口大学、山口県立大学、事業者、そしてハワイ州教育局、カウアイ郡、ハワイの山口県人会なども含めた国際的な産官学連携により実施された。
- 山口大学はグローバル・ラボをはじめとする研修プログラムの企画・運営、山口県立大学は学生メンター及びグローバル・ラボへの講師派遣、ハワイでの体験プログラム事業者はグローバル・ラボの講師としても協力するなど、相互にプログラムを越えて人材育成に向けて効果的かつ効率的に連携した。

(2)山口県立大学の学生メンターの協力

- 各グループに一名ずつ参加した県大生メンターは、グローバル・ラボ、グローバル探究プログラムを中心に参加者を支援した。
- 今年度は、参加者が提出した事後課題へのフィードバックも担当するなど事業運営にも積極的に関与した。各グループのリーダー及びファシリテーターとして参加者と深い信頼関係を築き、日常的にも相談にのるなど、お兄さん・お姉さんとして慕われるとともに、身近なロールモデルとしても大きな役割を果たした。

<参加者による県大生メンターへのメッセージより>

- グローバル・ラボなどの大事なお知らせを、いつも忘れないようにお知らせしてくれてありがとうございました。現地リーダー達と話す時に私たちが上手く話せずにいるとアドバイスをくれて嬉しかったです。みんな笑顔で行動できたのは県大生さんのおかげです！本当にありがとうございました！！
- いつも優しく話しかけてくださってありがとうございました。班のお姉ちゃん的存在でとても頼りになりました。ハワイ研修でも安心して楽しく過ごすことができました。
- 自分が班の中で最年少だということに、気を使ってくださりありがとうございました。最初は自分が高校生の中で上手くやっていた自信がなかったけれど、話しかけてくれたのでとても嬉しかったし安心しました。ハワイ研修では、色々なプロジェクトで話すことができて、とても面白かったし、楽しかったです。
- 長い間ありがとうございました！特にハワイでの1週間はサポートのおかげでめいっぱい楽しむことが出来ました。
- 私が困っている時、毎回笑顔で優しく教えてくださってありがとうございました。ハワイに安心して行けたのも、行く前まで、必要なものなど、色々教えてくださったからです。最終日、手紙を一人一人に書いてくださっていて、班の一人一人のことをよく見てくださっていたのだと思いました。とても嬉しかったです。私は話を聞く時に頷いているということを気づき、私の長所をひとつ知ることができました。本当に支えてくださりありがとうございました！
- 初めての集まりのとき、人見知りな自分に明るく話しかけてくれてほんと嬉しかったです！グループ全員の様子をいつも気にかけて全員が発言しやすいような雰囲気をつくってくれて、うちのグループが1番楽しかったです。

(3) デジタルポートフォリオの導入

- 本事業における課題やレポートの提出、諸連絡、講義内容のアーカイブ等としてデジタルポートフォリオを導入した。
- 参加者それぞれにIDとパスワードを割り当て、各自がログインして課題を提出したり自分宛ての連絡を見たりすることができる。また、例えば「第1回グローバル・ラボ」のページを開くと、当日の映像記録、当日配布資料などがアップされており、プログラムを振り返ることができるようにした。
- この仕組みの導入により、参加者が提出した課題やアンケート調査にフィードバックするなど、双方向のやり取りも可能となった。



デジタルポートフォリオの画面（例）



デジタルポートフォリオの画面（例）

7 参加者アンケート

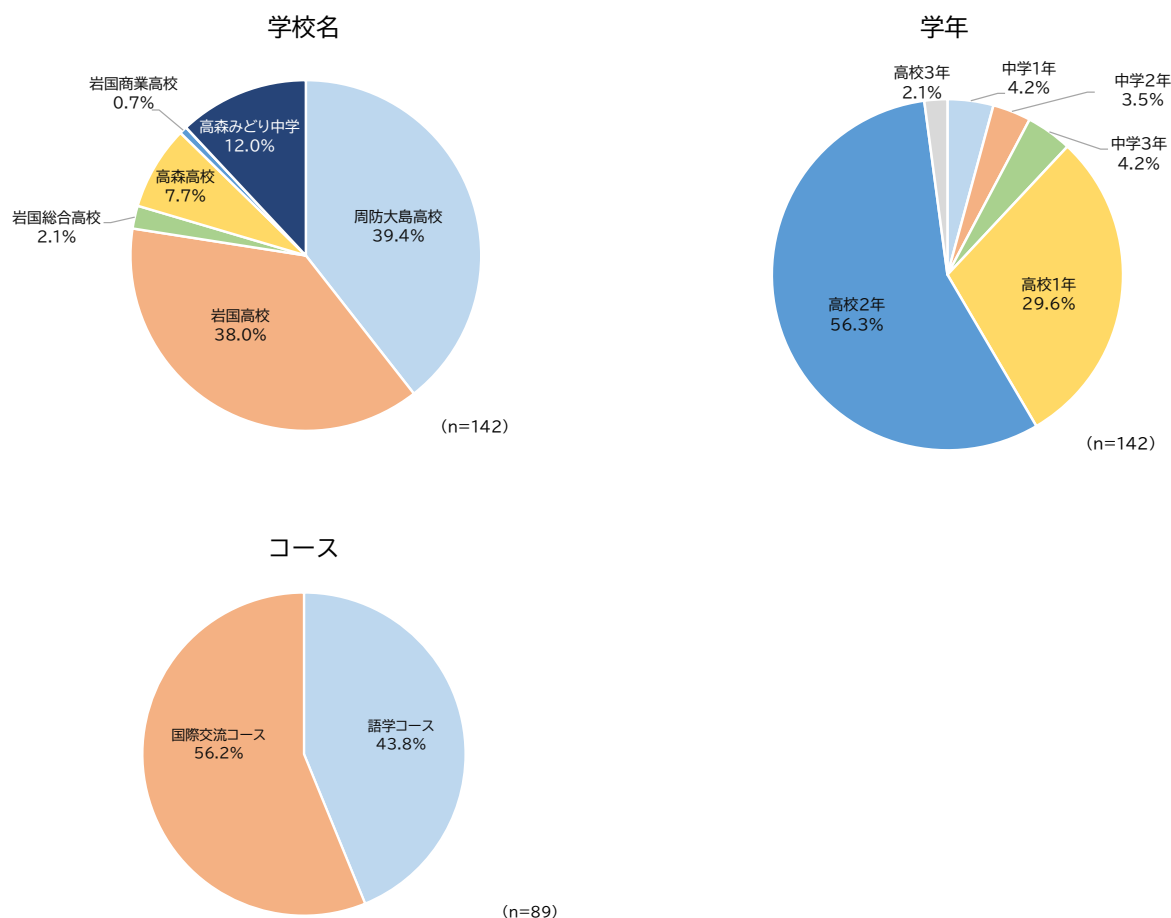
(1)調査概要

調査手法	Web アンケート調査
調査時期	令和6年（2024年）1月19日～1月26日

<調査結果表記上の注意>

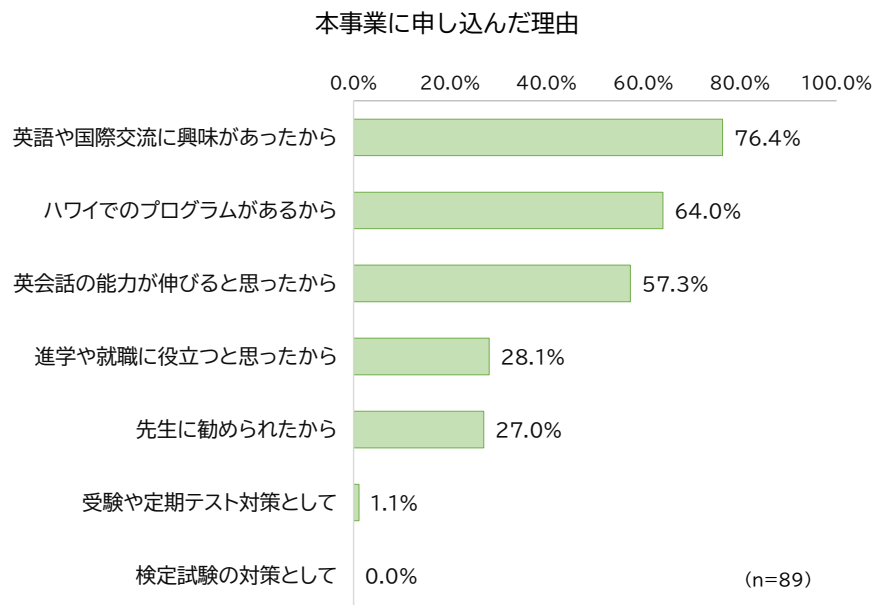
- ・図表内の比率を示す数値は全て百分率（％）で表し、小数第2位を四捨五入してあるため、その合計数値は必ずしも100にはならない。
- ・複数回答については、回答項目ごとに母数に対する比率を算出しているため、その合計数値は必ずしも100にはならない。
- ・無回答、無効回答は除いて集計しているため、サンプル数は設問により異なる。
- ・本文及び図表において、調査票の選択肢内容を一部簡易表記した。

(2)回答者の属性



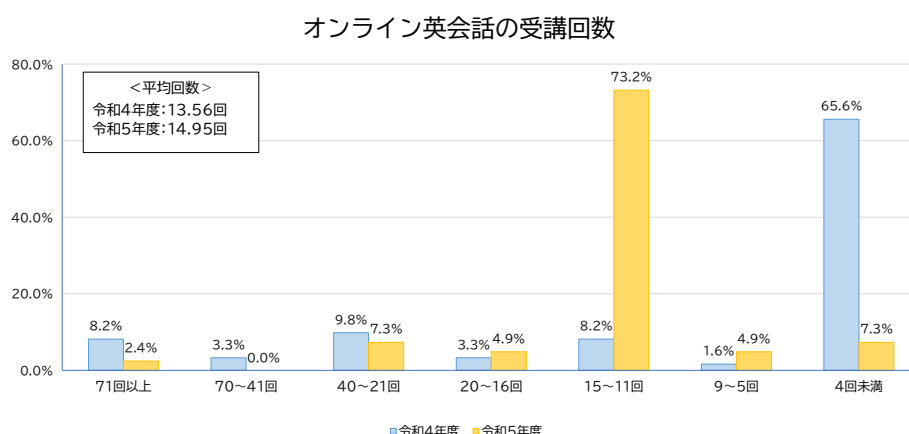
(3) 本事業に申し込んだ理由

- 本事業に申し込んだ理由については、76.4%が「英語や国際交流に興味があったから」を挙げ、次いで「ハワイでのプログラムがあるから」(64.0%)、「英会話の能力が伸びると思ったから」(57.3%)が続いている。国際交流への興味関心と英語力の伸びへの期待が、本事業申し込みの大きなきっかけとなっていることが分かる。



(4)語学力育成プログラム(*語学コースのみ)

- 10月1日～12月31日の3か月間を通じたオンライン英会話の受講回数は、受講者平均で14.95回であった。昨年度の13.56回から約1.4回程度増えており、期間中13回以上の受講を語学コース選択の推奨条件としたこと、受講前の登録サポート、レッスンを楽しむための資料配布、レッスン1か月のフォローなどの効果があったと思われる。
- 令和4年度は41回以上と非常に熱心に受講した生徒が11.5%いた一方で、4回未満の生徒が65.6%を占めるなど、二極分化傾向が見られた。今年度は、高頻度で実施した生徒は多くはなかった一方で、9割近い生徒が11回以上受講しており、全体としての底上げが図られた。



<参加者の意見より>

■受講期間中の感想

- 講師の方それぞれに特徴があり、とても面白かったです。国によつての喋り方の特徴やキャラクターの違いが興味深かったです。僕は英会話は初めてで、最初は緊張したけれど、後半は、ひとつの話題や質問から発展させて話すことができるようになりました。例えば、自分の住んでいるところを絵を描いて説明したり、どんなところか伝えたりできました。
- どの講師の方も良かったです。困って固まったところを別のレッスンにしてくれるなど柔軟に動いてくれました。やる時はいつも楽しいです！
- 発音などの面でとても勉強になります。もっと回数を重ねていきたいです。
- みんなとても優しくてやりやすかったです。丁寧に分からないところを教えてくれたりしてくれたので英語が少し身についたと感じました！
- 最初は緊張したけれど、回数を重ねるとだんだん緊張をせずにできるようになりました。まだ先生の言っていることが分からない時もあるので完璧に分かるように練習をしていきたいです。

- 何人かの先生を受けて今はある程度固定した先生でレッスンを受けています。1回目のレッスンよりも話題が続いたりお互いのことに興味を持ち質問をしたりできるようになってきたので楽しいです。

■受講していて困ったこと

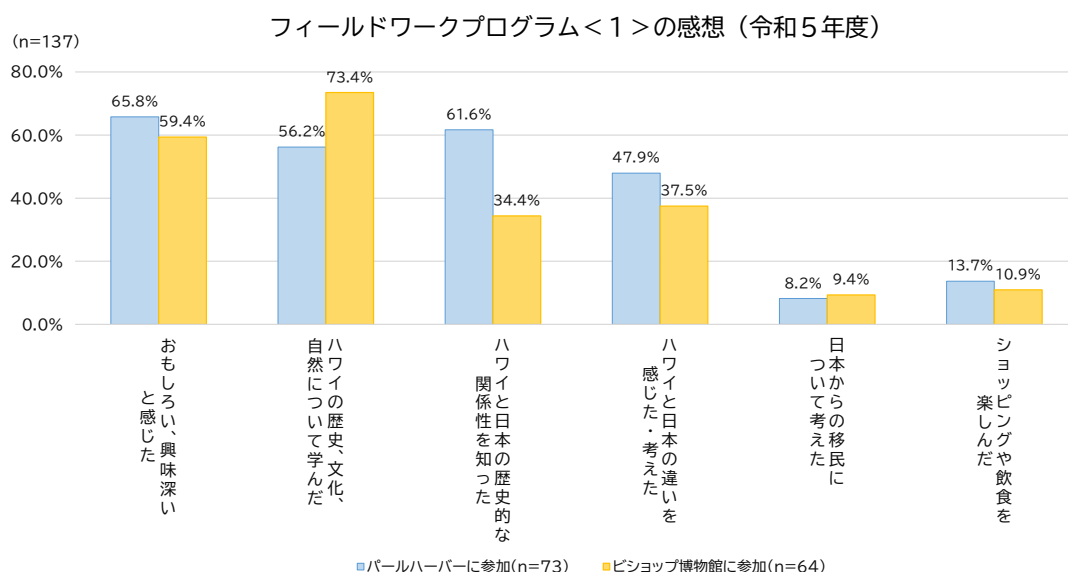
- 筆記では出来ていたことが、いざ話すとなると、口頭で表現するのがとても難しい。
- 先生がレッスン中に話した単語の意味がわからなくて質問に答えられなかったり話が少し途切れたりしうようになって焦ることがあります。
- レッスンの課題が終わった後にフリートークをする時、自分から話題が出せなくて、講師に頼りっぱなしになっています。
- レッスンの25分間、話題が持ちません。
- 講師の先生を選ぶのが少し難しいです。
- 外国人の先生だと分からない英語を直せないで、日本人講師の方にやってもらえればと思いました。
- 学校の課題や予習復習でする時間がない。

(5) グローバル探究プログラム

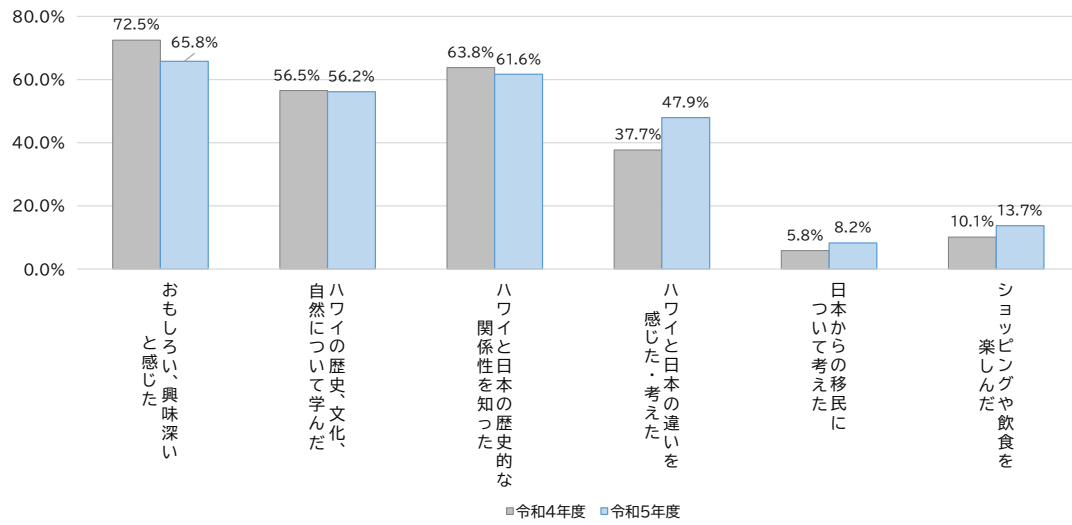
グローバル探究プログラムにおける各体験プログラムについて聞いた。

① フィールドワークプログラム＜1＞

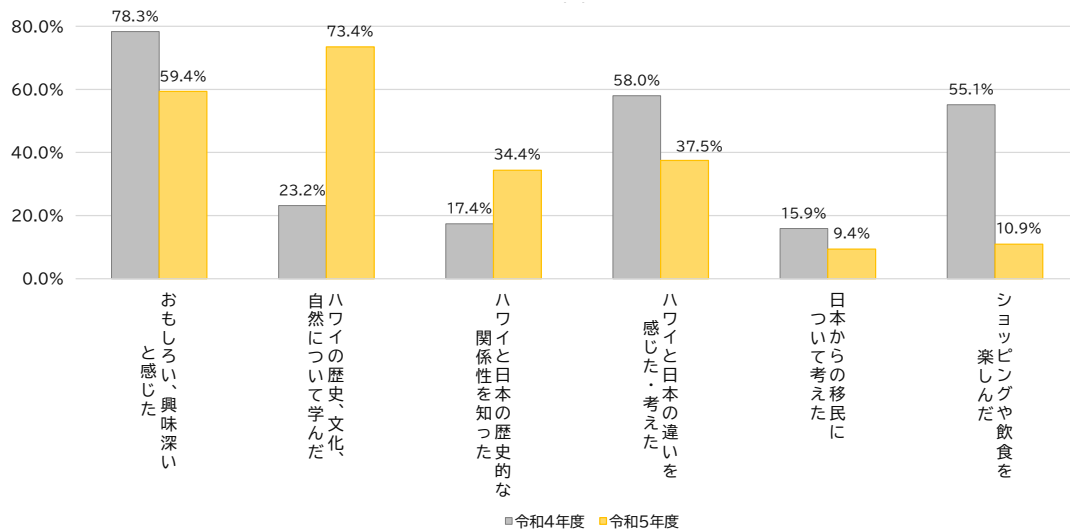
- 「パールハーバービジターセンター・戦艦ミズーリ記念館・太平洋航空博物館（以下「パールハーバー」）」と「ビショップ博物館・オアフ島東部見学（以下「ビショップ博物館」）」に分かれてのプログラム実施となった。
- パールハーバーは 65.8%、ビショップ博物館は 59.4%と、両コースともに概ね 6 割程度が「おもしろい・興味深いと感じた」と回答した。
- パールハーバーでは第二次世界大戦関連の展示が多かったことから「ハワイと日本の歴史的な関係性を知った」（61.6%、対ビショップ博物館+27.2 ポイント）、「ハワイと日本の違いを感じた・考えた」（47.9%、対ビショップ博物館+10.4 ポイント）と、両国の関係性に関する回答が高くなった。
- 一方、ハワイに関する展示が豊富なビショップ博物館は、「ハワイの歴史・文化・自然について学んだ」（73.4%、対パールハーバー+17.2 ポイント）となっている。
- 令和4年度と比較すると、パールハーバーについては、今年度はパールハーバービジターセンターでの資料館見学などを加えた影響か「ハワイと日本の違いを感じた・考えた」が昨年度より 10.2 ポイント上がったものの、全体の傾向としては大きくは変わっていない。
- A コースは、令和4年度はコーヒー農園とドールプランテーションを訪問した。移民の歴史の学びがあったもののショッピングや飲食が体験の中心になったことから、今年度は訪問先をビショップ博物館に変更した結果、「ハワイの歴史・文化・自然について学んだ」が昨年度より 50.2 ポイント上昇し、「ショッピングや飲食を楽しんだ」は 44.2 ポイント減少した。「ハワイと日本の違いを感じた・考えた」は昨年度の方が 20.5 ポイント高いが、これは、アメリカンサイズのアイスクリームに驚いた等の素直な感想が高い数値につながっていたものと思われる。



フィールドワークプログラム＜１＞の感想
(令和４年度／令和５年度：パールハーバー)



フィールドワークプログラム＜１＞の感想
(令和４年度：コーヒー園・ドールプランテーション／令和５年度：ビショップ博物館)



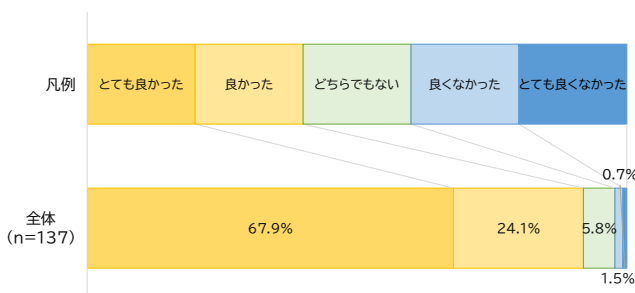
②ホロホロ・アドベンチャー

●「ホロホロ・アドベンチャー」は、5段階評価で「とても良かった」と「良かった」の合計が92.0%と、大半の参加者が高く評価した。

●「ハワイで最も良かったこと・心に残ったこと」（自由回答）に「ホロホロ・アドベンチャー」を挙げた参加者もみられ、参加者の多くにとって印象に残るプログラムとなった。

●自由回答から「良かった理由」を見ると、「現地リーダー（親切、安心感、英語が通じる経験）」「訪問先や街並み（建物や街並みからハワイならではの文化を感じた、有名な観光地ではないスポットを見学できた）」「公共バス利用（地元の人の普段の姿が見られる、乗り方が分かった）」「グループ活動（グループの人と仲良くなれた、一緒に活動して楽しかった、協力する大切さを知った）」「アロハプラスチャレンジ（ハワイのSDGsの取組や社会問題を知ることができた、ビーチのゴミ拾いでハワイのSDGsに貢献できた）」などが挙げられている。

ホロホロ・アドベンチャーの評価



<参加者の意見より>

●みんなで話せたし、一緒に写真撮ったりいろんなところを観光できたのがよかった。バスでいろんなところへ移動してたくさんの景色を見れたし、動画を撮るのも面白かった。リーダーともいろんな話をしたし、たくさん笑えた。なにより、最後にみんなで賞をとれたのが嬉しかった。

●ハワイでのSDGsに向けた取組みがハワイに住んでいるみんなで協力して行われていることを知って、ハワイの海や自然が綺麗な理由がよりわかった。

●ゲーム形式だったのでチーム全体のやる気が高まり、協力して取り組むことができたと思います。アロハタワーでは、ハワイの歴史や文化について特に学ぶことができました。事前にハワイについて調べてはいましたが、知らないことばかりで勉強になりました。現地の若い方とお話する機会にもなり、良かったです。

●班の先輩達とたくさん話す機会を持ててとても楽しかったです。アラモアナからワイキキなど、色々な有名な場所を周ることができ、特にウォールアートはとても感動しました。地域の活性化のためのアイデアとして、とても良かったです。途中で、bikiのハワイの人にとっての大切さや、一日で学んだことのスピーチで英語で話す機会もあり、勉強になりました。

●リーダーと一緒にハワイを見て回ることでネイティブ

の人と話す良いきっかけになり、ハワイの良さをたくさん知れました。自分の英語が伝わる楽しさを感じることができました。

●班の人たちと行動する中で、バスを使って沢山の場所に行き、ハワイがどんなところなのかを知ることができ、そのなかでハワイの人たちと交流ができました。また、ミッションでワイキキビーチゴミ拾いやbi-ki-の紹介ビデオをつくるなどして、ハワイに貢献できたと感じました。

●ワイキキビーチやカカアコなど有名なスポットにたくさん行けて、クイズなどもあり楽しめたから。またハワイ大学のリーダーの方とお話する機会が多く英語を使える場面が多くあって楽しかった。

●ハワイの歴史、文化、社会問題と対策などにまつわる箇所をたくさん巡ることができた。

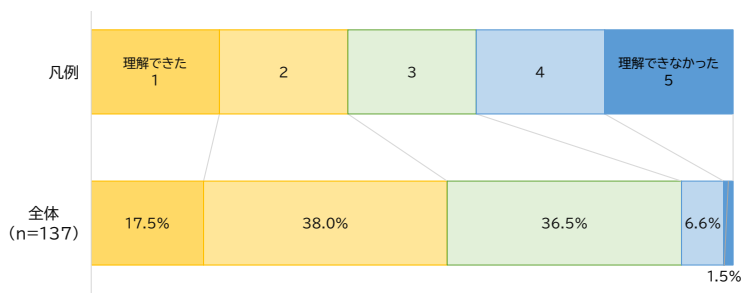
●SDGsについて考えるだけでなく、バスの乗り方なども知ることができて、自由研修にも役立った。

●一日でいろんなところを回れたのはとても楽しかったし、スーパーなど地元の人の生活も見れてよかった。しかし普段歩き慣れていないこともあって予想以上に疲れてしまった。

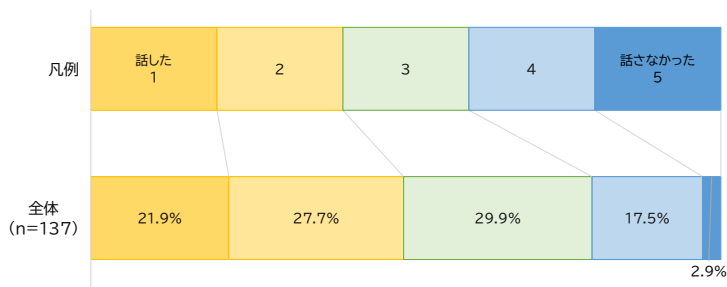
③ハワイ現地での英語の理解度

- ケビンさんや現地リーダーの英語がどの程度理解できていたのか聞いたところ、「理解できた」を1とし「理解できなかった」を5としたとき、「1」が17.5%、「2」が38.0%で、合計55.5%であった。次いで「3」が36.5%となっていることから、生徒の半数は聞いたことの大半は理解できており、3割程度は聞き取れないところはあるものの何となくは理解し、約1割はほとんど理解できていなかったと考えられる。
- 1日目、2日目に、各グループとほぼ一日中一緒にいた現地リーダーとどの程度話したかについては、「話した」を1とし「話さなかった」を5としたとき、「1」が21.9%、「2」が27.7%で、合計で約5割（49.6%）はリーダーと「話した」という実感を持っている。一方、「話さなかった(5)」は2.9%、「4」は17.5%であることから、2割程度の参加者は現地リーダーとほとんど話さなかったものと思われる。

ケビンさんや現地リーダーの話す英語の理解度



現地リーダーとの会話量



⑤現地交流・体験プログラム

●3 日目の現地交流・体験プログラムは3つのグループに分かれて行われた。

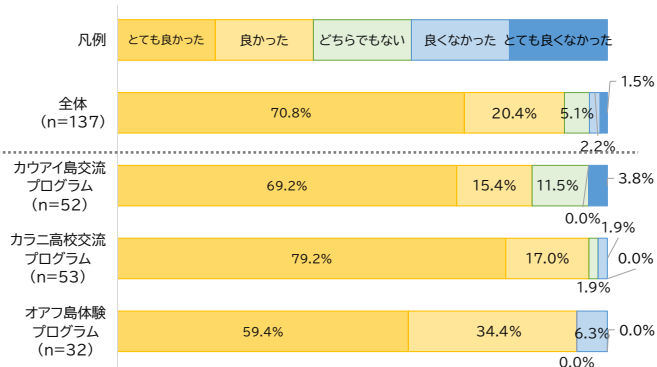
●全体では「とても良かった」が70.8%、「良かった」が20.4%で、計91.2%に達しており、総合的には非常に高い評価となっている。

●プログラム別では、カラニ高校交流プログラムが最も評価が高く、「とても良かった」が8割近くに達している。非常に満足度が高かったことが分かる。

●一方、カウアイ島交流プログラムは、「とても良かった+良かった」が84.6%と全体（91.2%）より低くなっているが、「どちらでもない」「良くなかった」と低く評価した参加者の理由を見ると「もっと現地の高校生と話せばよかったと後悔している」「朝が早かった」など、プログラム自体の問題というよりも、各自の感想によるものが多くなっている。

●オアフ島体験プログラムは、「とても良かった」は6割弱と他のプログラムより低いものの「良かった」との合計は93.8%にのぼっており、総合的には評価が高かったといえる。このプログラムについても、「あまり良くなかった」と評価した理由は「暑くて頭が痛くなった」などの体調面があがっており、プログラム自体への低評価は見られなかった。

現地交流・体験プログラムの評価



注：プログラム別はそれぞれサンプル数が小さいので、参考数値としてご覧いただきたい。

■カウアイ島交流プログラム

- 日本の学校との違いをたくさん教えてもらったり高校生と英語会話を楽しんで仲良くなることもできた。
- 現地の高校生の方と関わるとによって、同じ年の子が様々なことにトライしていることを知りました。カウアイ高校は約1000人の生徒がいて学校も広く様々な人たちがいました。
- ワイメア高校に行きました。案内してくれる皆さんが一人一人優しく、わたしに最初英語で話しかけてくださったのですが、私がいまだに英語を聞き取れず謝ると、謝らなくて大丈夫だよと言われ、翻訳機で会話をしてくれて、私も翻訳機で言いたいことの発音を確認して伝えていったら、会話がそこから盛り上がってSNSも交換するくらい仲良くなってすごく楽しかったです！
- 海外の学校の様子を見ることができて、日本との違いや良さを自分で体感できたからです。私はカウアイ高校に行きましたが、アイスブレーキングの時間や昼食の時間などのフリーな時間に、カウアイ高校の学生さんが話しかけてくださって、好きなアニメの話をしたり連絡先を交換したりして、とても充実した時間を過ごすことができました。今でも積極的に話しかけてくださる学生さんがいてうれしいです。
- カウアイ高校の交流では、たくさんのカウアイ高校の生徒さんと交流することができてカウアイ高校ではどんなことを学んでいるのか、授業の雰囲気はどんな感じなのか、どんな生徒さんがいるのか知ることができていい経験になりました。またカウアイ高校はとても

広くていい生徒さんばかりで、授業なども料理から芸術や音楽まで幅広いことを学びました。

- 現地の高校生と話すことができ現地の生活について知ることができた。今まで英語で会話する機会があまりなかったので、よい機会になりました。自分の英語力が少ないことにも気づかされ英語の勉強を頑張ろうと思いました。また、郡長の方に訪問し、カウアイ島と周防大島の交流について改めて知ることができ、カウアイ島との交流を続けていきたいと思うことができました。
- カパア高校では各グループに分かれてレイのようなものを作成したり、校舎内をカパア高校の生徒さんに案内してもらったり実際に授業をしている場面に入らせてもらったりしたので非常に学びのある時間でした。また、昼食を食べた後には体育館に移動し日本で言う、二人三脚としっぽとりゲームをしました。体育館というよりも競技場という感じの場所で観客動員数もかなり大規模で驚きました。同い年の友達も出来たので嬉しかったです。
- 現地の学生と言葉がわからないなりに、英単語、ノリ、笑顔で、コミュニケーションを図ることができたから。
- 言葉があまり通じない中カパア高校の方々によく接してもらい、言葉なんて要らないと思うくらいの体験が出来たこと。
- 現地の学校の同年代生徒と話したが語学力が足りず英語を勉強しようと決心した。

■カラニ高校交流プログラム

- カラニ高校の生徒とたくさん話した。初めて海外の高校生と友達になれてめちゃくちゃ楽しかった。学校の授業などを見学して日本との違いを深く学んだ。文化についての違いについて話し合ったり、ハワイ語や日本語を教え合った。最高の思い出になった。
- カラニ高校の人が日本語をととても話せることがびっくりして、日本語と英語を混ぜて普段から会話してるのがかっこいいと思った。普段から使うことがやはり大切なのかなと改めて感じた。
- カラニ高校を訪れて、自由度の違いに驚いた。また、いい意味で周りを気にしてない感じがいいなと思った。

- 学生の説明がユーモアに富んでいて面白かった。
- たくさん会話ができて、自分の英語力を確認する良い機会になった。
- 姉妹校でもこんなに違いがあるんだということを知れて良かったし、たくさん交流して文化や伝統の違いにも触れることができた。
- 海外の学校に行くというのは人生において貴重な体験だと思し、日本の学校との違いをたくさん発見できて面白かった。
- 殻を破ってたくさん英語で話すことができた。

- 日本と違うことが多すぎて、衝撃を受けて、行ってよかったなと心から思った。
- 皆日本語ができるので、日本語で話してしまいました。でも現地のお話をたくさん聴けて良かったです。
- ハワイに住む日本人と話してみて、私たちはハワイを羨ましがってるけど、ハワイに住む人は日本を羨ましがっているのを知って面白かった。日本との教育の違いを知れた。どちらも良さがある。
- カラニ高校は専門的なことを学べる授業があったり、日本語の授業に参加させてもらった時、たくさん話しかけていただいて日本よりもシャイな子は少ないのかなと思いました。
- 校舎の壁に書かれた絵は生徒が書いていたり、大きな

■オアフ島体験プログラム

- ひとつのことだけではなく、3つの出来事もできて、たくさんのお話を学べたと思う。
- 運河をきれいにするために元気ボールを投げたり、ハワイの大学に行ったりなど、ハワイの人に多く関わっていることについて、自分の体で体験したり、学んだりすることができて嬉しかったです。
- ハワイ大学とホールフーズマーケットでハワイの広さを学べた。
- 運河の「釣りができる」「泳ぐことができる」などの目標に向かって元気ボールを作るところから、投げるところまでしたことがとても印象に残っています。服が汚れて最初は嫌な気持ちだったけれど、最後は自分が少しでも運河の清潔に向けて協力できたと思ったら、とても嬉しかったです。
- 泥団子で川を綺麗にできることは知らなかったから日本でも広めていったらいいと思った。子供から高齢者までが協力して取り組める取組だと思ったから。
- アラワイ運河をきれいにするためにゲンキボールを作りました。僕はこのようなことを、ほかの汚れている河川でもやってみたいと思いました。そして、河川を汚すようなことはしてはいけないと思いました。アラワイ運河も人々の手によって汚れたからです。
- ハワイ大学では、トニーがハワイ大学をわかりやすく紹介してくれて、学食も美味しかったです。日本文化

庭があったりと日本の高校との違いに驚いた。

- カラニ高校のエンジニアコースの生徒と制作物に関する会話ができて、嬉しかった。カフェテリアで開かれたミニゲームを通して、会話を弾ませることができ、良い経験となった。
- カラニ高校は自由で生徒一人一人が伸び伸びしていて本当に羨ましかったです。
- 日本の高校とは違って服装、髪型、アクセサリなどを自由に楽しんでいたのが印象的でした。更にピアノの体験授業のときにはカラニ高校の学生さんがとても優しく教えてくれたので少し弾けるようになって嬉しかったです。また会いたいと思いました。
- センターでは、ハワイでの日本人の歴史や暮らしを知れたから良かった。
- ハワイの大学生とたくさん話すことができました。大学生とゲームをしたのが良かったです。
- ハワイの大学はとても大きく、車、電動自転車、キックボード、スケボーで移動していて、びっくりしたしとても興味を持ちました。
- 移住者などによって、日本の言葉が海外で家訓になっているのは驚いたし面白かった。
- 日本とハワイの歴史を比べたり知ることができたのでよかった。
- ハワイと日本は昔から交流があったということにとてもしっくりしました。
- 日本人がハワイに働きに行くようになった頃の話聞いて、当時はとても大変だったのかなと思いました。差別を受けたりしたという事実は初めて知ったのでとても驚きました。
- 国立太平洋記念墓地の一面の綺麗な緑にお供えされた花が綺麗で感動した。互いの国に関係のある歴史を知ることが出来た。
- スーパーマーケットで現地の方が何を買っているのか、売っている商品で環境への配慮があるものがあることが分かった。

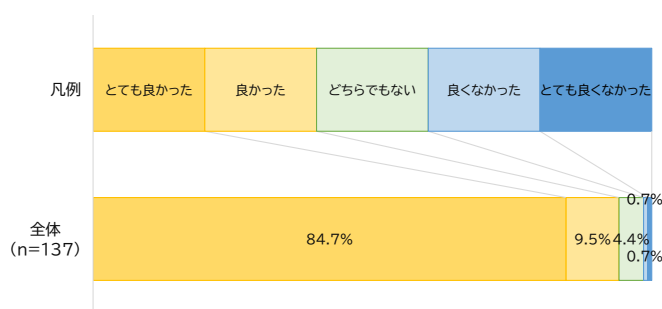
⑤「グローバル探究プログラム」の総合的な感想

- 「グローバル探究プログラム」の総合的な感想を聞いたところ、「とても良かった」(84.7%)、「良かった」(9.5%) 合計で 94.2%を占め、参加者の大半が高く評価していることが示された。

- 自由回答の内容を見ると、ハワイという魅力的なエリアを訪れたことのみならず、体験プログラム、グループメンバーとのコミュニケーション、現地の高校生との交流など、本事業ならではのプログラムへの評価が大きいことが分かる。

- 「ハワイで困ったこと」では、英語ができなくて困ったなど英語関連、チップやセントの扱いなど支払いに関する意見が多く見られた。

グローバル探究プログラムの総合的な感想



<参加者の意見より>

■ハワイで最も良かったこと、心に残ったこと

<各種プログラム>

- ホロホロ・アドベンチャーで、行きたいと思っていた壁アートを見に行行ったこと。ジャンルも異なる様々なアートに心を動かされた。
- 4日目の自由研修ももちろん最高だったが、泥だんご作ってハワイ大学をまわった3日目が1番楽しかった。泥だんごプロジェクトは作る方も楽しいし環境にも良くとてもwinwinだと思う。
- 1日目のビショップミュージアムでの光について学ぶエリアで、光を捕まえたり光でできたレーザーをよけたりするものが楽しかったです。
- ハワイと日本の関係の歴史を現地で学べたのが良かったと思います。私は戦争の話など知らないことがたくさんあったのでいろんなことが学べておもしろかったです。
- カラニ高校との交流で、英語で上手く返せなくても、何回も話しかけてくれることが嬉しかったです。全て楽しかった。
- カラニ高校の子と話したことです。カラニ高校の子がたくさん自分の学校生活などを紹介してくれました。また、おすすめの場所も教えていただきました。日本とハワイとの違いを言いながら、相手の方がこんなことがあるよと伝えてくれて、興味深い話がたくさん聞けました。

- 3日目のカパア高校に行った時が最も楽しかったです。海外ならではの活動ができ、学びも多かったからです。

- カパア高校との交流で色々なゲームをしたこと。

- 1番は英語で話しながらプログラムを楽しんだり、様々な文化、価値観について学んだこと。

<ハワイらしさ>

- ハワイでの食事が、日本にいる時から知っているつもりだったけれど、実物を見ると思ったよりもBIGサイズだったことが楽しかった。
- 全部の日程がハワイを知ることができ、ハワイの人のやさしさに触れることができ、とても楽しく充実していた。
- ビーチがすごく綺麗なことと、都会の街並みのあらゆる場所に木がいっぱい生えててすごく憧れた。

<英語が通じた体験>

- お店で商品のサイズを聞くとき自分の英語が通じて、勇気を出してよかったなと思いました。自分の英語が通じた喜びが心に残りました。
- お土産を買うときに、ドルだけでなくセントもうまく払えたり、レジの方と、少しだけ会話できたりしたこと。また、商品の取り扱いがあるかを英語で質問し、通じたこと。
- 自由行動の日に、バスに中々乗れなくて、色んな人に

英語で聞いてまわって、とても大変だったけど今考えるととても良い思い出になりました。

<ハワイの人たち>

- ハワイの方たちは皆フレンドリーで、街を歩いているだけで手を振りあったりアロハポーズをしあったりなど心優しい方が多い印象でした。そして「自分らしい」を大事にしていると感じました。好きな服を着て、好きなお化粧をしてとても自分の芯がある人が多かったです。
- 4日目にアラモアナへの行き方が分からなかった際、アラモアナまで現地の方が付き添ってくれたことが心に残っている。

■ハワイで最も困ったこと

<英語：表現できない、聞き取れない>

- 自分の単語力がまだ足りなくて自分の表現したいことをしきれなかったりしたこと。
- 相手が英語でいっていることがどういう意味なのかがわからない時にどうすれば良いか。
- 英語がべらべら喋れなくてもなんとかなるし、お互いに汲み取ろうとするので、困ったことは特にありませんでしたが、袋をいるか聞かれた時にいると答えははずなのに、もらえなかったり、ハキハキ喋らないと伝わらない。
- コーヒーショップで注文が通じず、飲みたいコーヒーが頼めなかった事。次回訪れたときには、頼めるように頑張りたいと思った。
- カードでないと買い物出来ないお店に行ってしまう、3人の外国人の方々から英語の質問攻めを数分間受けて、ずっとパニック状態になっていたこと。
- 現地リーダーとの会話。話を聞いて理解するのはできるけど、質問に対して答えるのが少し難しかった。
- 上手く自分の言いたいことが言えないこと。
- 英語圏の人の話すスピードについていくこと、スラングの意味を理解することが難しく、会話が詰まったこと。

- 自由行動でバスの乗り方を教えてくれた現地の人と話した時が心に残った。

<グループメンバーとの交流>

- ほかの学校の友達ができたこと。班のメンバーと仲良くなり、協力してホロホロ・アドベンチャーに参加できたこと。
- 部屋の人と夜に雑談したり、なかなか仲良くなる機会がない他学年の人や、違う学校の人と仲良くなれた。
- ホテルで同じ部屋の人たちと仲良くなることができました。

<支払い、お金>

- 大抵の事は大丈夫だったけどチップが難しかった。
- 初めの頃は買い物をするときのお金の出し方があまりわからなくて苦労しました。ハワイでの生活を続けていくうちにだんだん慣れてきて会計で手間取ることは少なくなりましたが、結局小銭の出し方はわからなかったのも、また行く機会があれば勉強したいです。
- セントの使い方やどの額を表しているのかわからなかったことです。しかし、お店の方が優しくしてコインを見せるとその額分のコインを教えてくださいました。
- 物価が高い。

<バスの乗り方・交通ルール>

- バス乗り放題のチケットを持っていたけどバス停の場所やバス路線が分かりにくく使いこなせなかったこと。
- バス停が多く、トロリーバスに乗る時に、どのバス停を使えばいいのかわからなかった。
- 交通ルール(横断歩道)が分かりにくかった。

<生活>

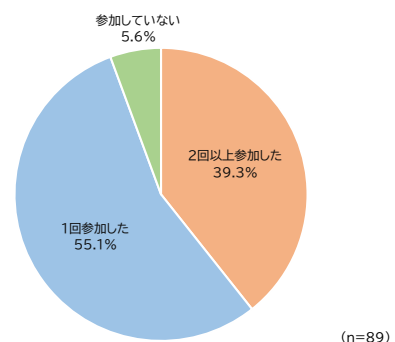
- 食事の味が日本とは思っていた以上に違って困りました。
- トイレのドアの上下に隙間が多いこと。

(6)国際交流体験プログラム

●国際交流イベント等に、本事業期間中に、国際交流コースの参加者は2回、語学コースは1回参加することになっている。参加状況を確認したところ、「2回以上参加した」が39.3%、「1回参加した」が55.1%で、合計94.4%は1回以上参加したとしている。

●参加したイベント等を見ると、Plat ABC のイベントが数多く挙げられたほか、学校の ALT や留学生とテーマを決めてトークしたなど、様々な形で国際交流に取り組んでいた。(参加イベント等の詳細は20ページ参照。)

国際交流イベント等への参加状況



<参加者の意見より>

●演奏を聴きにきている人の中に外国人の方がいて、音楽を通してコミュニケーションをとることができました。ハワイに行った時でも、このように何か共通の話題を見つけ、現地の方とコミュニケーションをとっていきたいと思いました。(Halloween Afternoon Concert/PlatABC)

●1番は楽しかった！！ということです。日本人がとても少なく、子どもは私だけ、最初はとても不安でしたが、外国の方はずっと笑顔なので私も笑顔になれたし、私に色々なことをさせてくれたのでとても嬉しかったです。聞いてみると班の方達みんなハワイ出身！！私がハワイに行くと言うと話が盛り上がり、色々なことを教えてもらいました！また、お母さんは？と聞かれ、待っていると伝えると、持って帰って！とたくさん余った料理をもらいました。ハワイの方は優しく笑顔でいつもニコニコしているということがわかりました！ハワイに行くのがもっと楽しみになってきました！(JAS10月料理教室/ロータスカルチャーセンター)

●中学生の時から今まで授業で英語を習ってきていても、実際に外国人の方と話すということが、どれだけ難しいかということがわかりました。それでも、わかりやすい単語を使いながら話してくださったので、理解できるところも多かったです。語学コースをとっているのも、ハワイ研修に行く前にもっと英語力を向上させたいと思いました。(spooky story time/Plat ABC)

●初対面の人とみかん狩りを楽しめた。初めは緊張して上手く話せなかったが、次第に簡単な英語だったが会

話することができた。完璧な英語で話しかけることが大事なのではなくて、拙い英語でも積極的に話しかけることが大切だと改めて感じた。(JAS 国際交流みかん狩り/松田みかん農園)

●外国人や、小さい子からお年寄りまで幅広い層の人が参加していた。岩国市の特産物の販売や地域の事業のプログラムが多く、まさにグローバルだなと感じた。(The TEENS IMPACT 2023～日米交流 KIZUNA フェスティバル～/愛宕山ふくろう公園)

●笑顔で「thank you!」って言って笑顔で返事をしてもらえたときはとても嬉しかった。最初は、伝わるかなと思ったけど、あいさつや表情だけでも、相手が言っていることが何となく分かるんだなぁと実感した。(ハロウィンカーニバル/岩国文化会館小ホールほか)

●私はこのプログラムに参加して、Rolling Calf という物語を知りました。外国では有名な物語ですが、見た目は3本足のヤギのようで、鼻には南京錠が付き、鎖で覆われている見た目から、とても恐ろしい生き物だなと感じました。日本には古くから妖怪などが伝えられてきていますが、同様に外国ではこの物語が伝えられているのではないかと思います。(spooky story time/Plat ABC)

●外国の方がたくさんいて、色々な服装をしていてとても楽しかったです。また、違うチームだけど、声をかけてもらったり、日本人も外国人も関係なくみんなで一緒に応援しあうことができ、とても良い国際交流体験になったと思います。(日米親善リレーマラソン/55FIELD)

- 岩国ならではのワークショップだったので、日本人よりも外国の方が多く参加されていて、作りながらたくさん英語でお話しすることができました。また、日本に興味を持っていて、日本語を勉強されている方もいたのでお互いに言葉を教え合いながら楽しんで会話することができました。(蓮の花托ワークショップ／PlatABC)
- 外国人の留学生の人との国際交流で、色々な国の人がいたけど、みんな日本語が上手でどうしてそんなに話せるのか聞くことが出来て、英語の学習に役立てそうだなと思いました！元々フラを披露するために行き、そ

の外国人の留学生たちにフラの踊りを教えました。日本語が使えないので、教えるのは難しかったけれど、楽しくできて良かったです！（龍神乃鹽で国際交流／周防大島）

- ALT のクリス先生と一対一でフリートークをしました。映画の話やハワイの話をしました。質問を盛んにしたので会話が続いて楽しかったです。ハワイでは何に気をつけたらいいかやどんなアクティビティがおもしろいかも教えてもらえました。(ALT との会話／岩国高校)

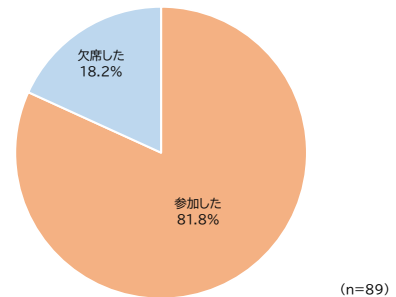
(7)ローカル探究プログラム

●ローカル探究プログラムには 81.8%の生徒が参加した。

●グローバル人材である松浦氏の話には見知らぬ土地で保健師として活躍するすばらしさに感銘を受けていた。また、将来的に留学したいと考えている参加者も多いことから、村岡氏のカナダ留学の話や失敗談などへの興味関心が高まったようだ。グループワークで自分たちの意見を交わし合い、ローカルの観点から地域について検討を進めた。

●午後のプログラムの「Differences between American and Japanese」では、特に「見えない文化」の話が楽しかった、勉強になったとの声が多く聞かれた。

ローカル探究プログラムの参加状況



<参加者の意見より>

●海外で学んだことを活かして地域社会の役に立とうとしている人が思った以上に近くにいて、とても勉強になりました。

●2人の講師の方々の話では、海外に留学した、青年海外協力隊として海外に行った経験・発見を、この山口の地元で活かしているというお話で、とても興味深かったです。大切なのは、海外に行った後、この地元でどう活用するかだということを、自分の中で理解しました。

●以前わたしは JICA 海外協力隊を調べたことがあったので、今回の松浦さんのお話は印象的でした。松浦さんのきっかけは（海外で活躍する医療従事者を）テレビで見たことだと知って驚きました。なぜなら私にも全然ありえそうなきっかけだったからです。しかし松浦さんのすごいところはそこから行動したことだと思います。わたしも小さなきっかけを大切に様々な経験につなげたいと思います。村岡さんのお話で印象に残ったのは英語を話す力は自分から話しかけないとつかないということです。わたしは現地に行けば、自然と英語をたくさん話す機会があるだろうと思っていましたので意外でした。帰国してから就職するまでの考え方もとても参考になりました。

●松浦さんと村岡さんのお話を聞いて、わたしもハワイに行ったあと、その経験を活かして自分に出来ることをやっていきたいと思いました。

●実際に海外で活動されたり、海外の方と交流をされている講師の先生の貴重なお話を聞くことができてよ

かったです。最近、基地以外の外国人をよく目にして、海外の人が増えているなど感じていたので、私も地域の活動と一緒に参加して交流をしてみたいと思いました。

●松浦さんは、青年海外協力隊として海外で医療での手助けをしていて、挫折しそうな時もあったそうですが、それでも、海外の人と向き合いボランティアを続けていたことは素晴らしいと思いました。帰国後、地元の人と外国人との接点を見つけようと山口県（ローカル）に目を向けました。村岡さんは、カナダの留学で外国人との向き合い方を学ばれて、それを山口県と関連付けていました。午後からは、スワンソン・マーク先生が、日本人と外国人との価値観の違いを面白く伝えてくれました。どの先生も、グローバルな視点や経験、体験からローカル（地元）へと繋げてよりよくしていました。私もハワイでの体験で、山口県をでの外国との交流を盛んにしていきたいです！

●松浦さんが赴任していたヨルダンのことを全く知らなかったので生活の様子だったり、食事のことを知ることができて楽しかった。海外の国よりも日本の方が生活環境が良いところもあると思ったのでお互いの発展のために協力できることはしていくべきだと考えた。

●今回のローカル探究プログラムでは、ハワイ研修に行った時どのように過ごせばいいか、ハワイ研修に行ったあとどのように地元で活かせばいいのか、将来どのような人になりたいか、いろいろなことを学ぶことができた1日でした。

●国内プログラム全体を通じて最も印象に残ったのは、

スワンソン先生の「Differences between American and Japanese 」だった。自分の知らないことを教えてもらった。文化の違いというものを日常の具体例を踏まえて知ることができた。

- スワンソン先生のお話を聞いて、アメリカと日本ではかなり文化の違いがあると改めて感じました。例えば電車の遅延で会社に遅れてしまった時に、アメリカでは自分のせいではないので謝らなくてもよいですが、日本では迷惑をかけてしまったらとりあえず謝らなけ

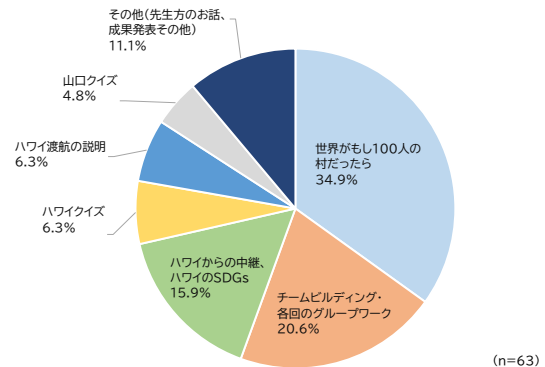
ればならないという点です。私たち日本人にとっては後者の方が普通なので少し違和感がありましたが、アメリカの方は日本のようにかっちりしていなくて気楽でいいなとも思いました。

- スワンソン先生による講義では、アメリカ（外国）との文化の違い、それによって起きるすれちがいなどを例に学ぶことができました。大切なのは異文化理解で、自分の文化・価値観で相手の文化を一方向的に否定するのではなく、お互いに理解することだと知りました。

(8) グローカル・ラボ

- 今年度のグローバル・ラボは全3回で、全て対面で行われた。
- 第2回までの段階で「最も心に残ったプログラムひとつ」を聞いたところ、第1回の「世界がもし100人の村だったら」を挙げた参加者が約3分の1（34.9%）となった。自由回答からその理由を見ると「世界には自分たちが知らない事実が多くあったことに驚いた」という意見が多く、グローバルな広い視野を持つのに役立ったようだ。
- 次いで、グループのメンバーと仲良くなるきっかけとなった「チームビルディング、各回のグループワーク」が挙げられている。
- 第2回グローバル・ラボで扱った「ハワイの学び」については、中継画像を見てハワイに行く気分が盛り上がったという意見とともに、アロハプラスチャレンジ（ハワイ版SDGs）への興味関心に言及したコメントが多く見られた。

グローバル・ラボで最も心に残ったプログラム



<参加者の意見より>

■第1回グローバル・ラボ

<心構え>

- ハワイに行く、それだけが目的で参加したこの事業ですが、説明を聞いてそれすらも通過点に過ぎない、もっと大きな何かのための事業なんだと思いました。これからの世界を生き抜くための英語力、コミュニケーション力をこれから磨き上げていきたいなと強く思います。
- 初対面の人と協力することは、これからの社会でもとても大事なことなんだと実感したし、それができないと逆にこの先困るというのはわかった。

<世界がもし100人の村だったら>

- 自分が見ている世界がどれほど狭いのか実感した。
- 世界と日本を比べてみると、「普通」という概念にこれほどの違いがあるものなんだと感じました。
- 今まで地域の課題を考える機会はたくさんあったけど、世界規模での課題は考えたことがありませんでした。今回のエイミー先生の講義で、世界の課題を深く考えるきっかけになりました。私たちは、水道の蛇口をひねったら、飲み水がいつでも出て、お腹が空いたら食

べ物を食べることができて、病院があって、そんな当たり前が世界では当たり前ではなく、学校にさえ行けてなくて、識字率が低い国も多いということがわかりました。また、単に女性の割合が男性に比べて少ないのも、知識として覚えるのではなく、なぜ少ないのか、どうしたら改善されるのかを大学生やグループの人とたくさん話し合うことができました。私たちに身近な、山口県を知ること大切だけれども、もっと広い視野を持って世界を知って、将来必要とされるグローバルに活躍できる人になるために、積極的に行動していきたいと思いました。

- 自分がいかに他の国の人より恵まれているのかということが、改めてよく分かりました。ヨーロッパとアジアの得る富が同じでも、アジアの人口の方が多いと分け合って一人一人の得る富はとても少ないということなど、視点を変えて物事を考えること、違う人のことを理解すること、知ること。これは簡単ではないかもしれないけれど、とても大切だと分かりました。
- 100人村を岩国市や山口県でやってみるとどうなるのか気になりました。

- 世界にはいろいろな人種、たくさんの言語、文化・宗教があることを改めて実感しました。それぞれ、人口の多さなどの多数派、少数派などがあれど、多数派だから正しいとか、少数派だから間違っている、のような偏った考えではなく多文化を認めて尊重していくことが大切だと思いました。
- 環境問題や、世界について、これからの社会で必要な力について学びました。特に驚いたのは、世界で字が読めない人が20%いることです。そのような人のために支援が必要と思いました。そして、日本以外の国にも関心を持たなければいけないこと、つまり「無関心でいいことがこれからの世界の問題の解決につながる」と思いました。
- 富の量や貧困、言語などについて身近に感じる事ができた。
- 世界では中国語を喋る人が最も多いこと、半分の人は他の誰とも言語が通じないことに驚きました。私たちが普段使用している日本語も、母数が少ないと話す人は一人になるのだと知りました。そしてそれは、外国語を学ぶことでもっとたくさんの人と関わり合えること、世界を知れるということの意味するのではないかと感じました。だからこそ、私はより一層外国語を学び、世界を知りたいと思うようになりました。
- マイライフについて考える中で、自分の理想の将来を叶えるためには家族の支えが大きいのだと改めて気づいた。また、何年後かの国や世界のことについて考える

る機会を得ることが出来た。

<チームビルディング、仲間づくり>

- これから一緒に行動していく11人の仲間ができました。初対面という面もありまだ壁はありますが、ハワイへ行くまでにその壁を無くして協力し合えるような関係になりたいです。
- グループのメンバーは初めて話すばかりで緊張したけど県大生が話しかけてくれてメンバー同士の緊張がほぐれ、楽しく活動することができました。仲をもっとこれから深めお互いいい経験になるように協力していきたいです。
- ゲームは難しかったし、最後はうまくいなくて残念だったが、あの時間でグループの人との仲がとても縮まった感じがしてとてもいい時間になった。
- グループワークにおいては個人の技量だけでなく全体でコミュニケーションをとる事が大切だと思いました。

<山口クイズ>

- 山口クイズは大学生の人たちが英語がスラスラ言えたのがかっよかったです。山口県のガードレールが黄色いのは県の特産である「夏みかん」っていうことを初めて知りました。
- 鹿のクイズやガードレールの色のクイズなどで身近な所に着目するきっかけになりました。

■第2回グローバル・ラボ

<ハワイからの中継、ハワイのSDGs>

- ハワイと中継をつないだから実際のハワイの様子がよくわかりました。ハワイではSDGsだけでなくゴミにも気をつけていることがよくわかりました。ゴミ箱をたくさん設置したり山登りの前には靴の裏に着いている植物の種などを落とすなど自然を大切にしているのがすごく伝わってきました。ハワイの人達が気をつけているから海などの自然が豊かなまま続いているんだなと思いました。
- SDGsの目標は大きすぎて、地域レベルで活動するには難しいと思っていたが、ハワイのように地域独自の目標を立てて活動していく方法であれば、地域レベルでも社会問題の解決に向けて行動をすることができ

そうだと思いました。

- ハワイ独自の「アロハプラスチャレンジ」を知り、新たな発見になった。ハワイは火力発電を行っていて、ゴミ箱が多く設置されていると知り、実際に行った時にゴミ箱の数にも注目してみようと思った。ハワイに関する質問も出来て、より楽しみになった。
- ハワイのSDGsの取り組みが「アロハプラスチャレンジ」と呼ばれているのを知った。サンゴに優しい成分でできている日焼け止めを使おうという取り組みは、ハワイのような暖かい地域ならではの取り組みで興味深かった。
- 日本の人々が自分の国の自然などを守ろうとしていることと同様に、ハワイの人々も思っていることがわかつ

たので、行った時には気をつけたいです。

- 日本とハワイの関係、SDGs(持続可能な開発目標)、ハワイの現状と解決しなければならない問題など、色々な問題や現状を見ることができました。でも今、二酸化炭素が増え続け地球温暖化が進む、海洋ゴミ(プラスチック)が増え続け、魚の量を上回ると言われている、という現状があります。その問題を世界規模で見るのではなく、自分たちにできることはないか考えて、ペットボトルを買わない、マイバックを持参するなど自分でできる小さなことから行動していきたいです。また、このプログラムで行くハワイ研修では、ダイヤモンドヘッドに登るときは、靴の裏に外来種の種がついていないか確認する、ハワイと日本の間であった真珠湾攻撃などの歴史を知って、現地の人に嫌な思いをさせないなど、観光客としての最低限のマナーを守っていきたいです。
- 現地からの映像や中継があつてとても分かりやすかった。
- SDGs に対する様々な取り組みや、試されている工夫を知ることができ、学びになりました。ハワイでは

オーバーツーリズムを解決するための対策がとられているんだなと思いました。私が住んでいる岩国ではオーバーツーリズムをあまり身近に感じたことがないので、オーバーツーリズムについて考える良い機会になったと思います。

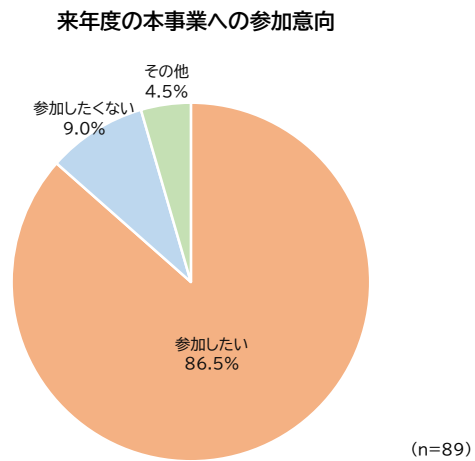
- 前回の事後課題でハワイについて調べ、班のメンバーと共有することができましたが、ハワイに行くまでに、自分でももう少し調べたいなと思いました。

<ハワイクイズ、ハワイ渡航の説明>

- ハワイでは歩きスマホは罰金であるということが分かりました。又、自動販売機は押したものと別のものが出てくる場合があるなど、日本とは様々な点で異なっていると感じました。現地で困らない為にも、ハワイのマナーをきちんと理解した上で研修に臨みたいと思いました。
- ハワイに行く時の準備について、親がいない状態で一人で話を聞いたので、持ち物や聞き流しがないように注意点をしっかり聞きました。

(9)本事業への来年度の参加意向

- 来年度もし同じ事業があるとして、参加したいかどうか聞いたところ、86.5%が「参加したい」と回答した。自由回答にも「来年度は2回目の人も参加できるようにしてほしい」といった意見もあり、参加者にとっての満足度は非常に高かったといえる。



8 事業による効果

(1) 事業の効果測定の方法

事業の効果測定にあたっては、2 ページに示した「育てたい力」に基づき、以下の図のようにアウトプットとアウトカムを設定し、その達成状況をアンケート調査にて確認した。



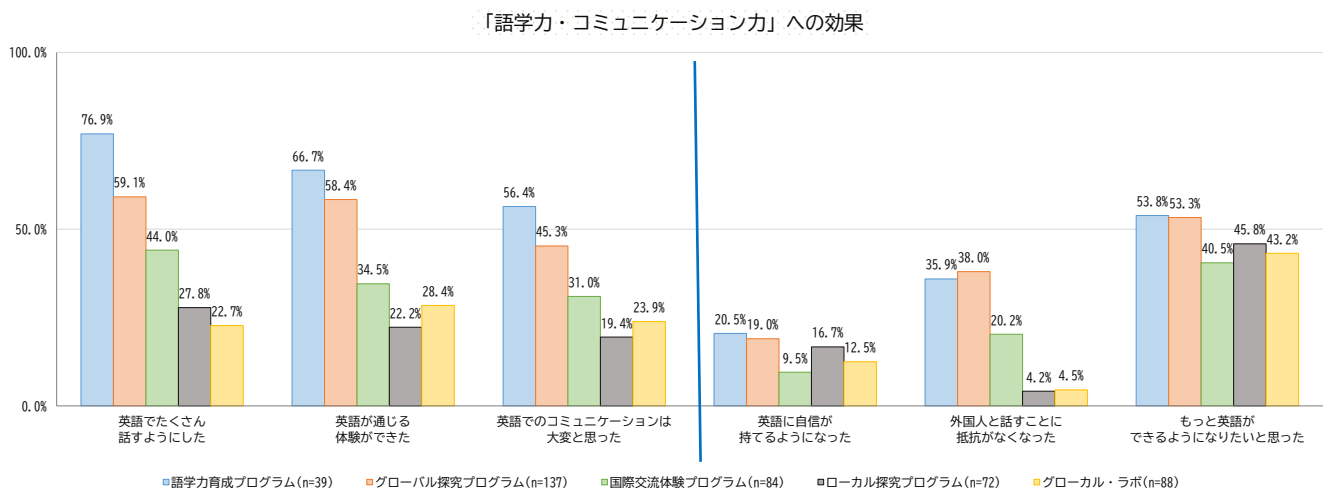
(2) データの留意点

- 「語学力育成プログラム」はサンプル数が小さいため、参考数値としてご覧いただきたい。
- 「グローバル・ラボ」は昨年度は全4回であり、全回終了後にアンケート調査を実施した。今年度は全3回であり、かつ1月に調査を開始したため、2回終了時の感想となっている。
- 各プログラムの特性により、プログラムによって聞いていない項目等がある。

(3)各プログラムの効果

①プログラムごとの語学力向上への効果

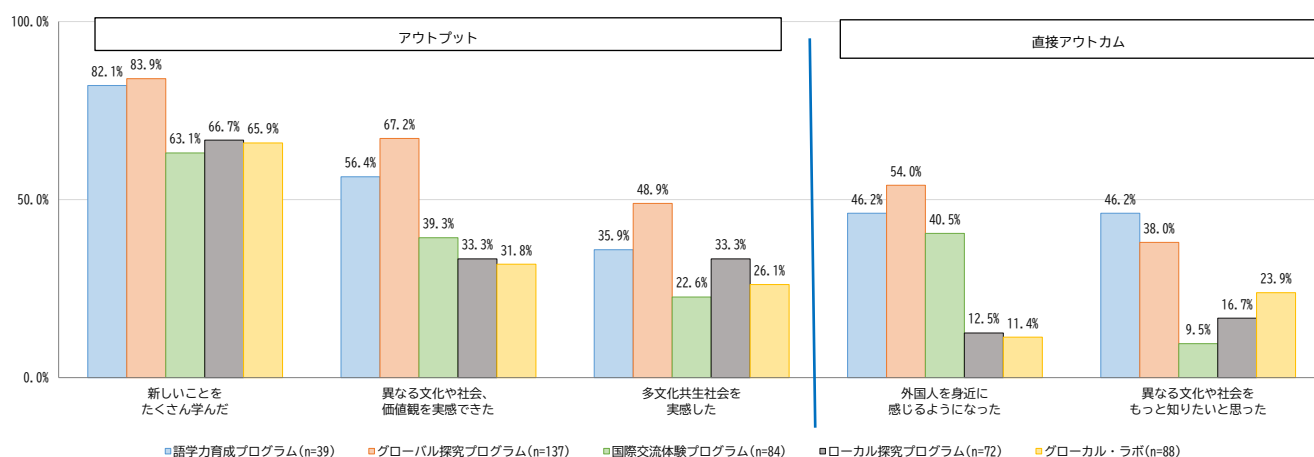
- 項目ごとに見ると、「英語でたくさん話そうにした」は語学力育成プログラムが76.9%と最も高くなっている。「英語が通じる体験ができた」についても語学力育成プログラムは他プログラムより数値が高く(66.7%)、各参加者が積極的に取り組み、英語が通じるという成功体験や喜びを得たことがうかがわれる。
- アウトプット項目である「英語でたくさん話そうにした」「英語が通じる体験ができた」「英語でのコミュニケーションは大変と思った」はいずれも、語学力育成プログラムが最も高く、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラムが続くという似た傾向を示している。グローバル探究プログラムは「英語でたくさん話そうにした」(59.1%)、「英語が通じる体験ができた」(58.4%)といずれも5割を超えており、多くの参加者にとって語学力やコミュニケーション力育成の効果を挙げた。一方で、ローカル探究プログラム、グローバル・ラボでは、今年度は英語での講義が多かったものの、自ら英語を使わざるを得ないシーンはあまり多くなかったためか、一定の数値にとどまった。
- 「英語でのコミュニケーションは大変と思った」も、語学力育成プログラムが最も高く、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラムが続くという上記と同様の傾向となっており、実際の外国人とのコミュニケーション経験が、英語の必要性の実感へとつながるものと思われる。
- 上記のようにアウトプットの面では各プログラムの差異があったが、直接アウトカムである「英語に自信が持てるようになった」「もっと英語ができるようになりたいと思った」については、プログラムによる差異はそれほど大きくない。ただ、「外国人と話すことに抵抗がなくなった」は語学力育成プログラム、グローバル探究プログラムが高かったことから、継続的、あるいは複数日程にわたり英語を「聞く・話す」体験が、英語への抵抗感をなくす効果を挙げたものと推測される。
- 一方で、全体に、「もっと英語ができるようになりたいと思った」など、英語ができないことへの反応が高い一方で、「英語に自信が持てるようになった」というポジティブ項目には反応が低くなっている。英語ができないことを自覚して頑張る気持ちを持たせることも大切であるが、英語の楽しさを体験する、あるいはその時点の英語力でもコミュニケーションできたという自信を持たせる経験も重要であり、来年度以降に向けた課題点と考えられる。



②多様性や多文化共生への理解

- 「新しいことをたくさん学んだ」については、グローバル探究プログラム（83.9%）、語学力育成プログラム（82.1%）が高い数値を示した。また、ローカル探究プログラム（66.7%）、グローカル・ラボ（65.9%）、国際交流体験プログラム（63.1%）も6割を超えており、新たな知見を提供するという点では、いずれのプログラムも高い効果を挙げたといえる。
- この「多様性や多文化共生への理解」に関わる項目については、全体的にグローバル探究プログラムの数値が高めとなった。グローバル探究プログラムについて参加者の67.2%が「異なる文化や社会、価値観を実感できた」、48.9%が「多文化共生社会を実感した」と回答しており、多様な人種が行き交い、多文化が共生する社会を、身をもって体験したことが強いインパクトとなったようだ。特に今年度、3日目に組み込んだ交流プログラムに寄せられたコメントから、ハワイの高校生や現地ボランティアとの交流が多様性理解への効果を押し上げたことが伺われた。
- 「外国人を身近に感じるようになった」「異なる文化や社会をもっと知りたいと思った」の直接アウトカムについてもグローバル探究プログラムと語学力育成プログラムが高くなっている。実際に様々な人や文化に身近に接する実地体験が、多様性理解・多文化共生において重要であることが分かる。

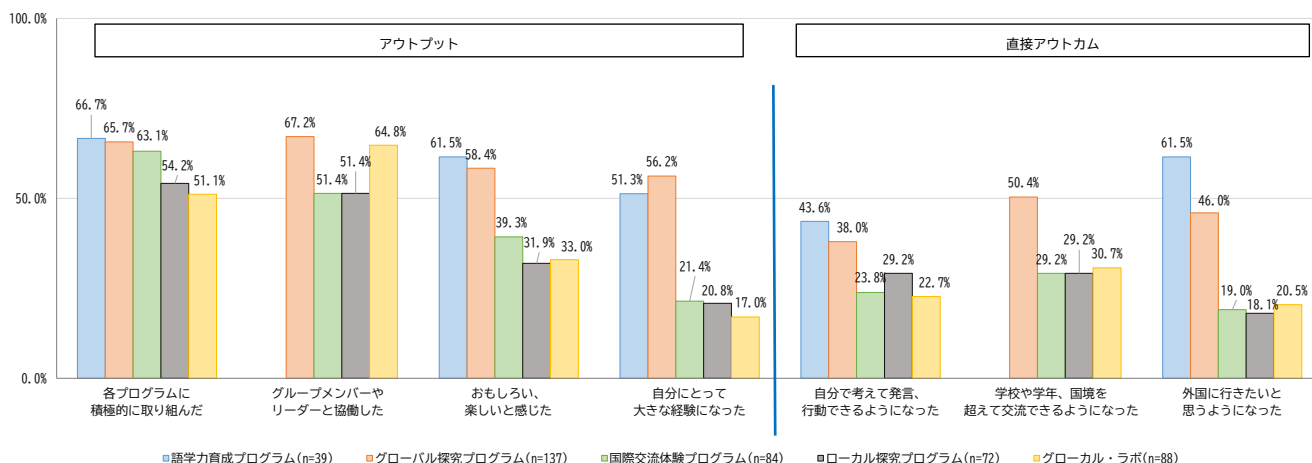
「多様性や多文化共生への理解」への効果



③自ら考え、物おじせず行動する力

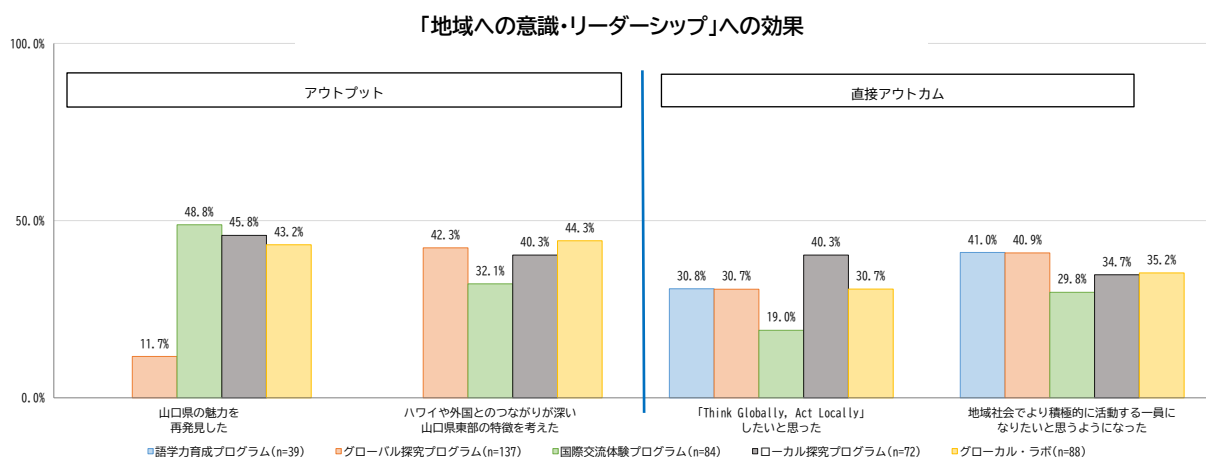
- 「各プログラムに積極的に取り組んだ」（語学力育成プログラム 66.7%、グローバル探究プログラム 65.7%、国際交流体験プログラム 63.1%、ローカル探究プログラム 54.2%、グローバル・ラボ 51.1%）と、活動への積極的な関わりについてはいずれのプログラムも5～6割となっており大きな差異は見られない。参加者がいずれのプログラムにも積極的に参加していた姿勢が示された。
- 「グループメンバーやリーダーと協働した」については、グローバル探究プログラム 67.2%、グローバル・ラボ 64.8%が高くなっている。この2プログラムは全てグループ単位での行動であり、今年度は特に、事業開始当初から県大生メンターの力を借りながらグループ内コミュニケーションの円滑化を重視してきた。その効果が表れたものと思われる。
- 実際に海外を訪問するグローバル探究プログラムや海外の講師と直接会話をする語学力育成プログラムは参加者に与えるインパクトが大きく、これが「自分にとって大きな経験になった」（グローバル探究プログラム 56.2%、語学力育成プログラム 51.3%）、「おもしろい、楽しいと感じた」（語学力育成プログラム 61.5%、グローバル探究プログラム 58.4%）など、他プログラムより高い数値につながったものと思われる。
- グローバル探究プログラムは学年や学校を超えたグループ行動を主としたため、「学校や学年、国境を越えて交流できるようになった」が50.4%と他プログラムより高くなっている。
- 「自分で考えて発言、行動できるようになった」（語学力育成プログラム 43.6%、グローバル探究プログラム 38.0%）、「外国に行きたいと思うようになった」（語学力育成プログラム 61.5%、グローバル探究プログラム 46.0%）など、行動変容につながる直接アウトカムの項目は、語学力育成プログラムとグローバル探究プログラムが他のプログラムより高い傾向が見られた。
- なお、昨年度は、この「自ら考え、物おじせず行動する力」の直接アウトカム項目は全体的に、グローバル・ラボの数値が高かった。今年度は必ずしもそうした傾向は見られないが、これは今年度はグローバル・ラボ実施回数が4回から3回となり、また、アンケート調査が第2回開催までの時点で実施されたことに加えて、今年度は国際交流体験プログラムの進捗管理、チームビルディング、グローバル体験プログラムや語学力育成プログラムの説明などをグローバル・ラボに組み込んだ結果、グループワークやワークショップなど含めて独自のプログラム実施の時間が制約されたことも影響したと推察される。

「自ら考え、物おじせず行動する力」への効果



④地域への意識・リーダーシップ

- 今年度から導入したローカル探究プログラムは、この「地域への意識・リーダーシップ」の育成効果を期待したものであったが、実際にいずれの項目でも一定以上の反応が示されており、想定した効果が得られたといえる。特に、本事業の最も大切な目標である「Think Globally, Act Locally したいと思った」については、ローカル探究プログラムが40.3%と最も高く、地元のグローバル人材の講演や日本と海外との違いなどに触れたプログラムが効果を挙げたものと考えられる。
- 「山口県の魅力を再発見した」は、グローバル探究プログラムで数値が低いのに対して、国際交流体験プログラムが48.8%と最も高く、ローカル探究プログラム（45.8%）、グローバル・ラボ（43.2%）が続いている。国際交流体験プログラムは外国人が多い東部地域ならではのプログラムであり、ローカル探究プログラムは地元グローバル人材との交流、グローバル・ラボでは山口クイズなど、山口県の魅力発見に各プログラムとも積極的に取り組んできた効果であると思われる。
- 一方で、上記①～③で見てきた各「育てたい力」には、いずれも6～7割が反応している項目があるのに対して、この「地域への意識・リーダーシップ」に関する項目はいずれも4割程度と、全体に反応が若干低めの傾向が見られた。海外に行ったり外国人と話したりする強烈な体験と比較して、地元に関することやグローバル人材の意味等はインパクトに欠ける面は否めず、その解決も今後の課題と思われる。



9 事業の総括

(1)事業内容のまとめ

- 県内のみならず海外も訪れる半年間にわたる事業として、語学力育成プログラム、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラム、ローカル探究プログラム、グローカル・ラボの5プログラムとも大きな事故やトラブルもなく事業を完了できた。
- 4つの「育てたい力」である「語学力・コミュニケーション力」「多様性や多文化共生への理解」「自ら考え、物おじせず行動する力」「地域への意識・リーダーシップ」について効果を測定したところ、プログラムによる強弱はあるものの、各「育てたい力」とも概ね5～8割の参加者が該当すると回答し、高い効果があったことが示された。
- 語学力育成プログラム（＊語学コースのみ）では、昨年度よりオンライン英会話参加回数が上昇し、また、参加者の76.9%が「英語でたくさん話すようにした」、66.7%が「英語が通じる体験ができた」、61.5%が「外国に行きたいと思うようになった」と回答するなど、英語力の確実な向上と自信の獲得、外国人とのコミュニケーションへの抵抗感払拭に大きな役割を果たした。
- グローバル探究プログラム（ハワイ研修）については、83.9%が「新しいことをたくさん学んだ」と回答し、参加者にとって新鮮な知識や体験が数多く得られたことが示された。「ハワイに行った」ということだけでなく、体験プログラムやグループメンバーとのコミュニケーション、現地の人との交流など本事業独自のプログラムへの評価が高く、これらが参加者の視野を広げるのに大きく貢献した。特に、現地高校やハワイ大学への訪問及び学生間交流は、日本の学校生活・価値観とハワイとの違いに触れる生の機会となり、参加者に大きなインパクトを与えたようだ。
- 国際交流体験プログラム（岩国市等で実施されている国際交流イベントに参加）では、他のプログラムと比べて「山口県の魅力を再発見した」とする参加者が多くみられ、東部地域の魅力や特性への気づきを生み出した。参加報告レポートにおいても、英語がうまく話せないところをやさしく助けてもらった、知らなかった外国の文化や知識に触れた、基地の外国人とハワイの話で盛り上がったなど、東部地域やハワイという共通の話題から相互の親しみが生まれている例も多く、身近で温かい交流による地域への愛着を形づくる場ともなっている。
- 今年度から新たに導入したローカル探究プログラムについては、導入当初期待したとおり、「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できる）したいと思った」が他のプログラムと比べて最も高く、地域への意識醸成に大きく貢献した。また、海外経験を経て地域に貢献している県内のグローカル人材による講演を聞いたことで、今後、自らがグローカル人材になっていく道筋も具体化できたようである。
- グローカル・ラボは、全てのプログラムを一貫する内容で全3回実施した。今年は全ての回を対面で行い、県大生メンターの力も借りて当初からグループ内の一体感の醸成に力を入れた結果、学校も年齢も異なるグループメンバーが一体となって課題に取り組むことができた。また、世界のSDGsの課題を体感する「世界がもし100人の村だったら」や「ハワイからの中継」等のプログラムでは、多くの参加者から「自分が見ている世界がどれほど狭いのか実感した」といった意見が寄せられ、世界は広く、身近な環境や価値観が全てではないということを実感する機会となった。

- 以上のように、語学力育成プログラム、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラム、ローカル探究プログラム、グローバル・ラボの5プログラムごとに内容や効果に違いがあり、各プログラムが相互に補完しあって総合的にグローバル人材育成を推進した。
- 本事業では、東部地域の県立高等学校・中学校、防衛省及び岩国基地等の協力と、山口県、岩国市、周防大島町、和木町、山口大学、山口県立大学、事業者、そしてハワイ州教育局、カウアイ郡、ハワイの山口県人会なども含めた国際的な産官学連携が実現したことが、事業運営の滞りない実現と上記の高い効果につながった。また、山口県立大学の学生メンターは、昨年度以上にグループメンバーと深く関わり、日常的にも事後課題の進め方の相談にのったりハワイの準備を細かくアドバイスしたりするなど、中高生である参加者を力強くサポートした。
- 今年度からは、運営サイドと参加者との情報共有手段としてデジタルポートフォリオを導入した。これは、参加者それぞれにIDとパスワードを割り当て、各自がログインして課題を提出したり自分宛での連絡を見たりすることができるもので、講義内容を振り返ることもできる。この仕組みの導入により、参加者が提出した課題やアンケート調査に講師や県大生メンターがフィードバックするなど、双方向のやり取りも可能となった。

(2) 課題と改善点

- グローバル探究プログラム、グローバル・ラボとも、事業期間を通じて同一メンバーのグループ単位で実施した。グループには中学1年生から高校3年生の6学年にわたる参加者が混在したが、今年度は、県大生メンターの尽力もあって昨年度以上にメンバー間のコミュニケーションは活発で、上級生がきめ細かく下級生の面倒を見るなど、良好かつ有意義な関係性が築かれた。一方で、下級生の世話が優先となって国内・海外でのプログラムにおいて負担が大きくなった参加者も一部に見られた。特にグローバル探究プログラムでは、一部の参加者に過剰に負担がかかることは、プログラムの進行及び安全対策の上からも望ましくないため、一定のサポート体制を構築するなど何らかの検討が必要と思われる。
- 語学力育成プログラムでは、昨年度の経験を踏まえて、語学コース申し込みの条件として期間中13回実施を推奨し、また、初期登録段階のサポートや途中段階でのフォローなどきめ細かい対応を行った結果、約8割の参加者が推奨条件を達成し、平均参加回数も増加した。一方で、回数を充たすことが最優先となり、レッスンへの集中力を欠いた参加者が一部に見られた。また、言いたいことを英語でどう伝えればよいか分からないためにストレスを感じるという参加者は多く、「英語に自信が持てる」という直接アウトカムにつながりきれていない。この点を踏まえた新たなフォロー方法の検討が期待される。
- グローバル探究プログラムでは、昨年度の経験を活かしたブラッシュアップした内容と現場運営により、参加者からの評価は非常に高かった。ただ、プログラムの充実に向けて現地の高等学校など連携対象が増えていく中で、準備や調整に時間がかかったプログラムもあった。また、1日のスケジュールやプログラム内容、目的や達成目標を参加者にできる限り伝えてきたものの、まだ浸透しきれていない例も見られ、県大生メンターの協力も得ながら、更に参加者への情報提供を徹底していくことが望まれる。
- 国際交流体験プログラムは、学校のALTや留学生との交流も対象としたことから参加率が向上し、また、実際に参加した生徒からは楽しい雰囲気や積極的に取り組めたという意見が多かった。一方で、語学コースは1回、国際交流コースは2回参加を義務づけたことから、必要回数を充たすことが最優先となり、

取り組み方に課題があった参加者が一部に見られた。また、グローバル・ラボを「国際交流イベント」と間違って報告してきた生徒も一定数見られた。このこと自体は課題であるが、毎回外国人講師によるプログラムと国際交流体験が提供されているグローバル・ラボは、実態としては国際交流イベントとしての性格も持ち合わせている。このことを踏まえ、今後は集合プログラムの中で国際交流体験を提供していくこともひとつの方法と考えられる。

- ローカル探究プログラムは今年度初めての実施であったが、グローバル人材による講演や、日本と海外の違いに関する講義により、「ローカル」に関する視点を育成する高い効果があった。見知らぬことを知るワクワク感がある「グローバル」に対して、「ローカル」は地味な面もあることから、今後は、例えばハワイと連動させたテーマ設定を検討するなど、参加者の興味関心をより一層引き出すプログラムづくりが期待される。
- グローバル・ラボは、今年度は3回を対面で実施した。昨年度、課題として挙げられたグループメンバー間の関係性は大きく向上し、充実したプログラム展開が可能となった。一方で、プログラム横断的な位置づけを昨年度以上に重視し、国際交流体験プログラムなど他プログラムの説明や進捗管理なども組み込んだことから、グローバル・ラボとしての独自プログラムのための時間が制限された。また、短時間で伝えるべきことをきちんと伝えるために講義形式のプログラムが増加せざるを得ず、グループワークなどの時間を十分に取ることができなかった。グローバル・ラボの位置づけと時間配分を再度検討していくことが必要と思われる。
- 今年度から導入したデジタルポートフォリオについては、参加者への情報提供や課題の提出、アーカイブなどの機能により、メッセージの一斉配信や課題提出に大きな役割を果たした。ただ、今年度が導入初年度であったため、システムの制約条件や使い勝手などの点で課題が残った。また、生徒側のPCスキルや理解力にも大きい差異があり、必ずしも十分に使いきれていない生徒も見られた。単なる情報提供や課題提出だけであればメール等でも対応可能であることから、ポートフォリオ形式を使う意義を再度検討し、必要な機能を整理することも検討したい。

東部地域グローバル人材育成事業
令和5年度事業実施報告書

令和6年(2024 年)3月

山口県教育庁高校教育課
〒753-8501 山口市滝町1番1号
TEL 083-933-4627 FAX 083-933-4619

再編関連特別地域整備事業

